

苫小牧市教育委員会・小学校 「平成29年度 苫小牧市統一学力検査」 考察資料

■ 検査目的

- 苫小牧市内の小学校児童の学習状況を検査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

■ 検査内容

- 全国学力検査（集団準拠調査 NRT）東京書籍

■ 検査対象

- 苫小牧市内の公立小学校4・5・6年生の児童
- 検査対象教科は、国語・算数

■ 検査結果

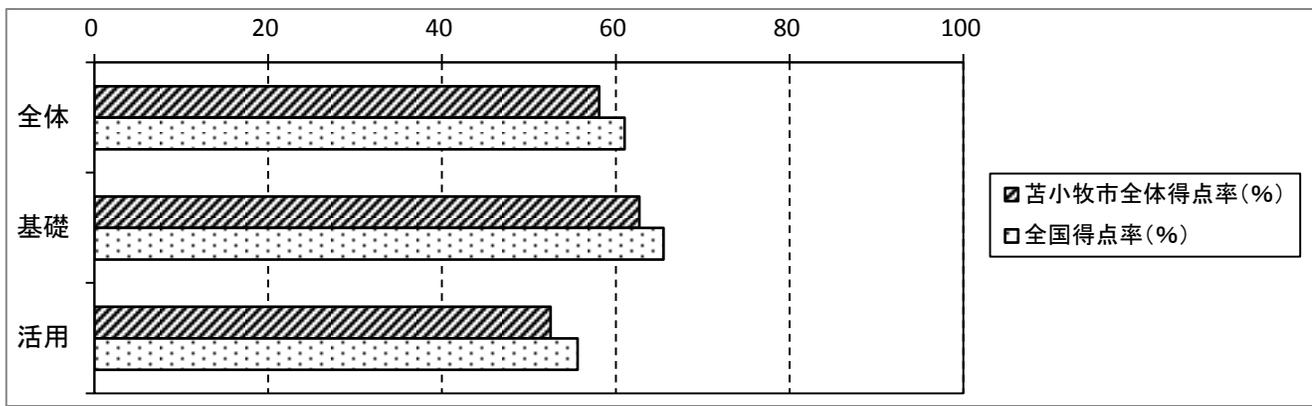
【小学校の検査結果】

		苫小牧市全体 得点率 (%)	全国得点率 (%)	全国との差	受検者数
小学校・ 4年生	国語	58.1	61.0	▲ 2.9	1433
	算数	54.8	60.9	▲ 6.1	1434
小学校・ 5年生	国語	63.3	64.5	▲ 1.2	1483
	算数	53.7	55.9	▲ 2.2	1483
小学校・ 6年生	国語	61.1	62.5	▲ 1.4	1443
	算数	52.8	56.7	▲ 3.9	1442

■小学校4年生 国語

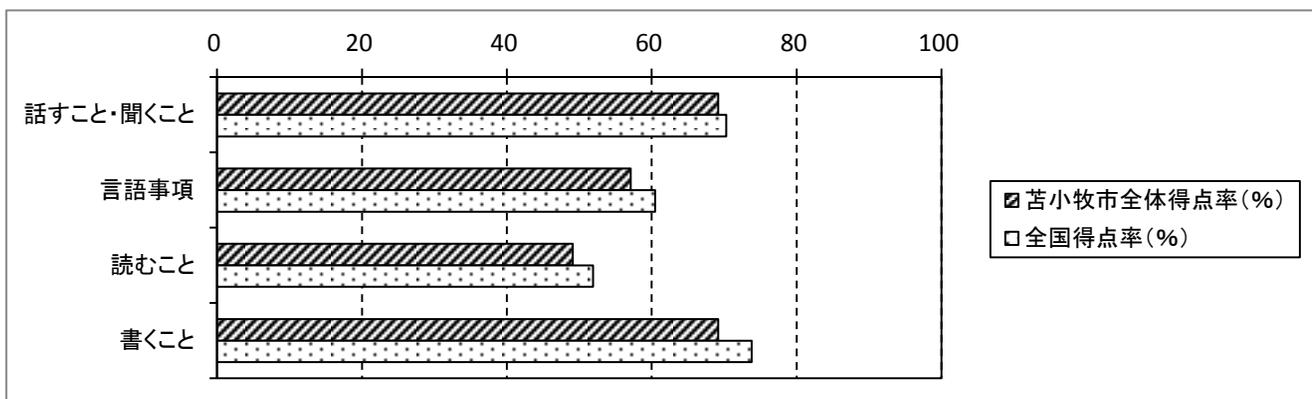
(1) 基礎・活用別得点率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体得点率 (%)	58.1	62.7	52.5
全国得点率 (%)	61.0	65.5	55.6
全国との差	▲ 2.9	▲ 2.8	▲ 3.1
苫小牧市偏差値 (今年度)	48.5	48.5	48.6
前年度同集団偏差値	—	—	—
偏差値推移 (今年度—前年度)	—	—	—
前年度同学年偏差値	48.8	48.4	49.4
偏差値推移 (今年度—前年度)	▲ 0.3	0.1	▲ 0.8



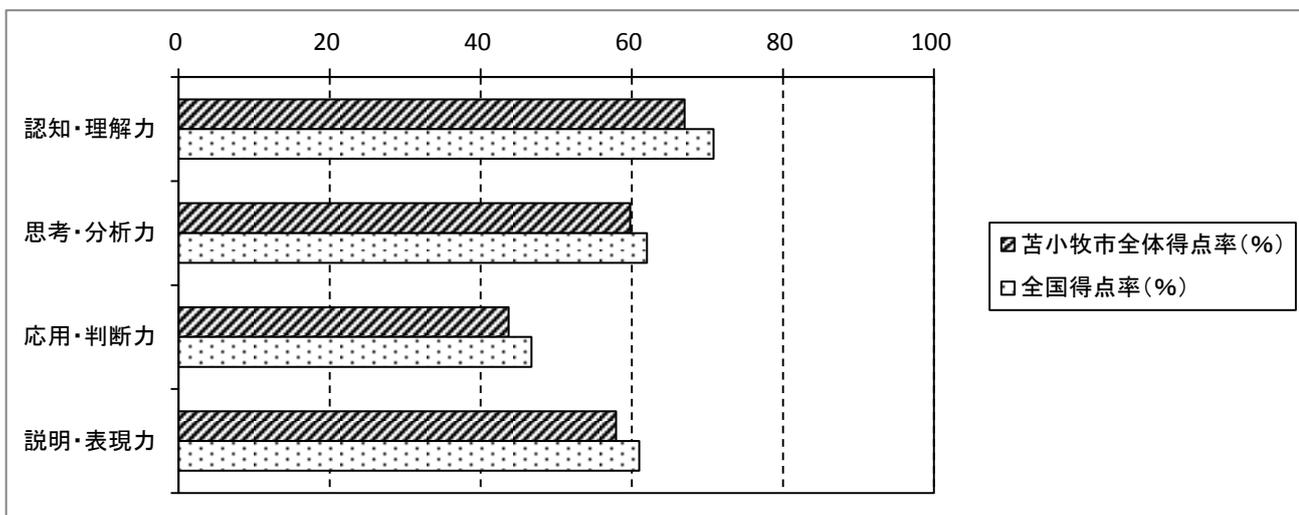
(2) 領域別得点率

	話すこと・ 聞くこと	言語事項	読むこと	書くこと
苫小牧市全体得点率 (%)	69.2	57.1	49.1	69.2
全国得点率 (%)	70.3	60.5	51.9	73.8
全国との差	▲ 1.1	▲ 3.4	▲ 2.8	▲ 4.6
苫小牧市偏差値 (今年度)	49.5	48.5	48.8	48.6
前年度同集団偏差値	—	—	—	—
偏差値推移 (今年度—前年度)	—	—	—	—
前年度同学年偏差値	49.9	47.4	49.1	49.8
偏差値推移 (今年度—前年度)	▲ 0.4	1.1	▲ 0.3	▲ 1.2

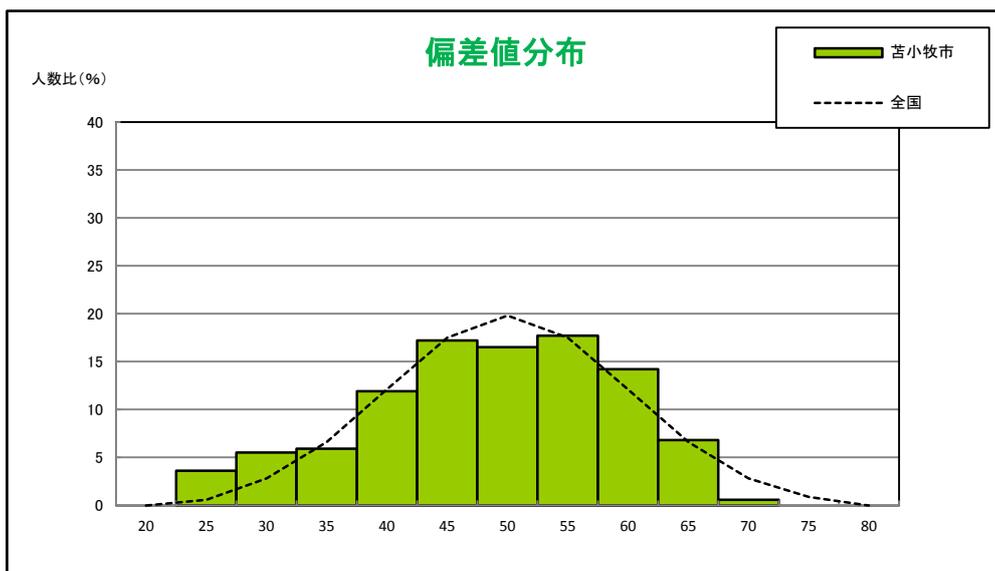


(3) 能力別得点率

	認知・理解力	思考・分析力	応用・判断力	説明・表現力
苫小牧市全体得点率 (%)	67.0	59.8	43.7	57.9
全国得点率 (%)	70.8	62.0	46.7	61.0
全国との差	▲ 3.8	▲ 2.2	▲ 3.0	▲ 3.1
苫小牧市偏差値 (今年度)	48.2	49.0	49.0	48.7
前年度同集団偏差値	—	—	—	—
偏差値推移 (今年度—前年度)	—	—	—	—
前年度同学年偏差値	48.1	48.8	48.8	49.9
偏差値推移 (今年度—前年度)	0.1	0.2	0.2	▲ 1.2



(4) 偏差値分布



偏差値平均 48.5

(5) 課題のある小問についての分析

大問2(2)②

【漢字の書き】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	29.1	38.8	▲ 9.7	30.6	▲ 1.5
出題のねらい	第3学年までに学習した漢字を書くことができる。				
対策	多くの漢字を一気に覚えることは難しいため、日々、漢字に触れる機会をつくる必要がある。例えば、次のような工夫である。新しい単元に入る前には、新出漢字の読みや送り仮名の分かる掲示物を準備し、目に触れるようにしておくこと。毎日、2問は漢字の書き順を確認し、2日に1回は、10問漢字テストをすること。また、どの教科においても、ノートや文章の中で漢字を使う機会を増やし、漢字を使用することを日常的に指導することが大切である。国語辞典は常に傍に置き、調べることを習慣付けるとよい。				

大問3(4)

【語句・文法に関する知識】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	22.2	37.6	▲ 15.4	26.0	▲ 3.8
出題のねらい	文の主語がわかる。				
対策	主語・述語の関係を押さえるには、短い文を長い文に増やしていくことにより、修飾語の意味を理解させることが大切である。例えば、「(場所)～に、小さな赤い花がさいた。」という文を例にとると、主語「花」を修飾する「小さな」「赤い」という語を理解させ、「～に」は主語にならないことを指導する必要がある。主語と述語の関係は、既に低学年で学習している。「だれがなんだ。」「何がなんだ。」「だれはなんだ。」「何がどなんだ。」「だれがどうした。」「だれもどうした。」などの種類があり、助詞「が」「は」「も」などが主語となる、という知識が必要である。				

大問5(4)

【説明文の読み取り】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	22.4	27.8	▲ 5.4	25.1	▲ 2.7
出題のねらい	目的に応じて内容を大きくまとめ、説明することができる。				
対策	本問の文の「土手を()のために、」という表現から、空欄には理由が入ることを理解したい。その理由については、文章の中で、「コンクリートで土手をかためられてしまっている」「土手がコンクリートでおおわれ」「水べをコンクリートでおおってしまう」と何度も繰り返し説明されている。さらに、「コンクリートでおおわれた、虫や魚がすまなくなった川は本当にさびしい表情に見えるんだ」という文からも、その理由がよく理解できる。文章を読むときに、ある事柄の理由や原因となる事実が、文章全体を通してどのように説明されているのかを読み取る学習を、繰り返し行うことが大切である。				

大問6(2)

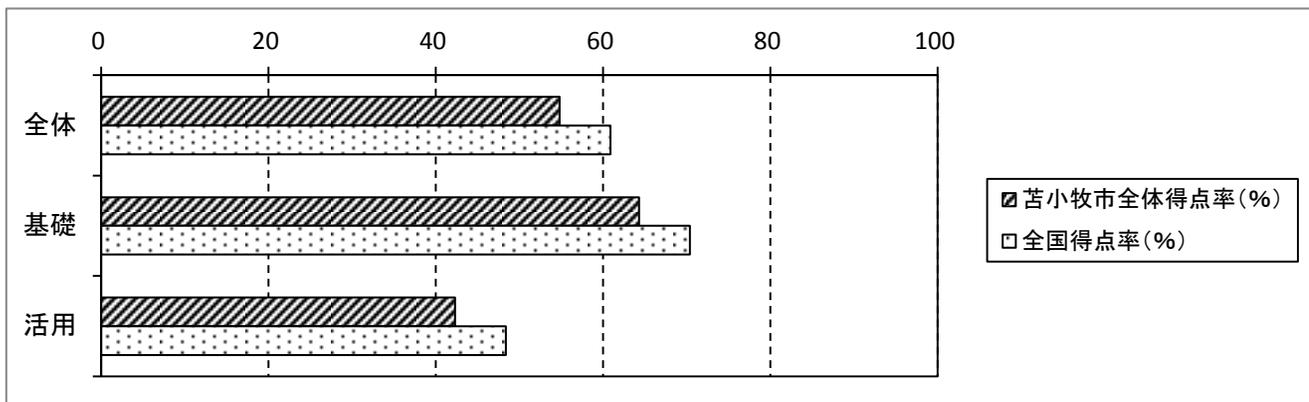
【作文】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	67.8	74.0	▲ 6.2	70.6	▲ 2.8
出題のねらい	自分の考えが明確になるよう、段落相互の関係を考えて書くことができる。				
対策	第1段落には、好きな遊びがどんな遊びかを詳しく書き、第2段落には、「なぜ好きなのか」や「面白いところ」を書くという条件を、読み取る必要がある。また、文章を2段落に分けて書くには、それぞれの段落の最初の文が重要である。例えば第1段落では、「私が好きな遊びは……です。」と書き始め、「どんな遊びか」というと、……」というように文章をつなげる。次に第2段落では、「この遊びがなぜ好きかというと」「どんなところが面白いかというと」のように、表現の仕方を工夫させる。200字程度の文章を2段落でまとめるような短作文を書かせる指導を、日頃から取り入れたい。				

■小学校4年生 算数

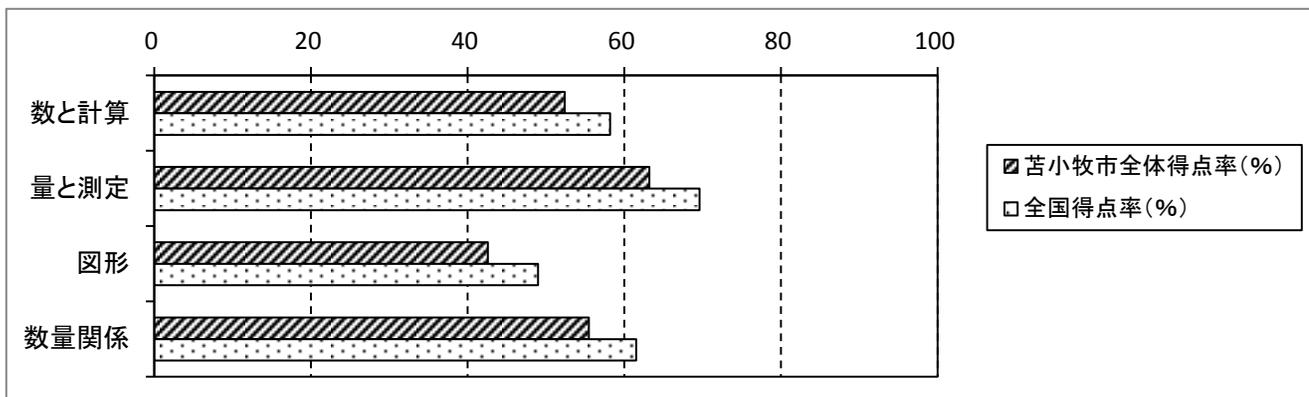
(1) 基礎・活用別得点率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体得点率 (%)	54.8	64.3	42.3
全国得点率 (%)	60.9	70.4	48.4
全国との差	▲ 6.1	▲ 6.1	▲ 6.1
苫小牧市偏差値 (今年度)	46.7	46.8	47.1
前年度同集団偏差値	—	—	—
偏差値推移 (今年度—前年度)	—	—	—
前年度同学年偏差値	48.0	48.1	48.2
偏差値推移 (今年度—前年度)	▲ 1.3	▲ 1.3	▲ 1.1



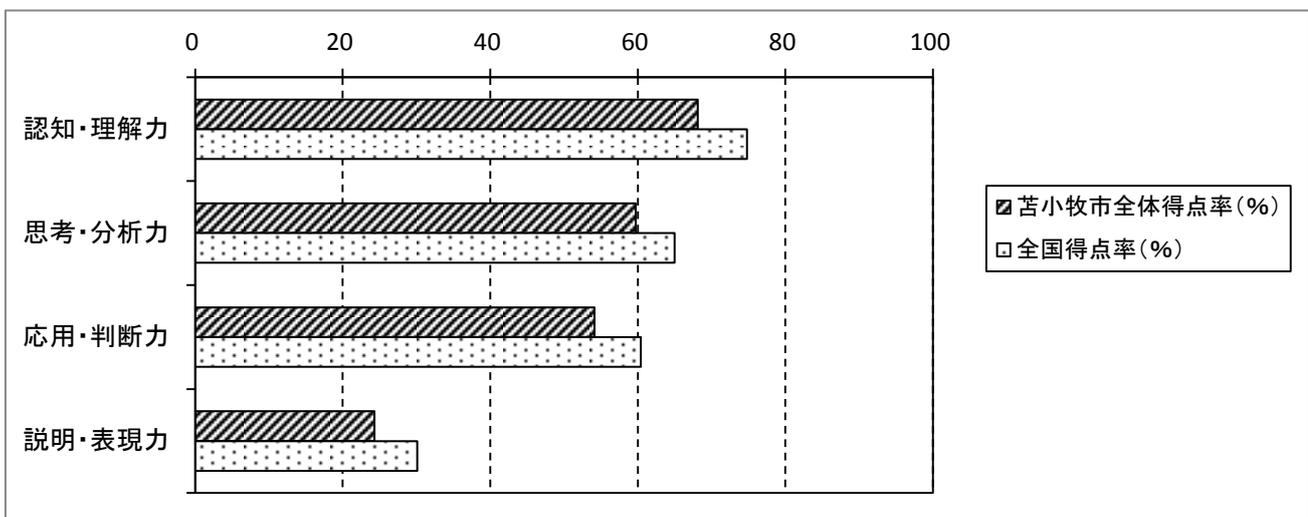
(2) 領域別得点率

	数と計算	量と測定	図形	数量関係
苫小牧市全体得点率 (%)	52.4	63.2	42.6	55.5
全国得点率 (%)	58.2	69.6	49.0	61.5
全国との差	▲ 5.8	▲ 6.4	▲ 6.4	▲ 6.0
苫小牧市偏差値 (今年度)	47.0	47.2	47.5	48.0
前年度同集団偏差値	—	—	—	—
偏差値推移 (今年度—前年度)	—	—	—	—
前年度同学年偏差値	47.7	48.3	48.5	49.5
偏差値推移 (今年度—前年度)	▲ 0.7	▲ 1.1	▲ 1.0	▲ 1.5

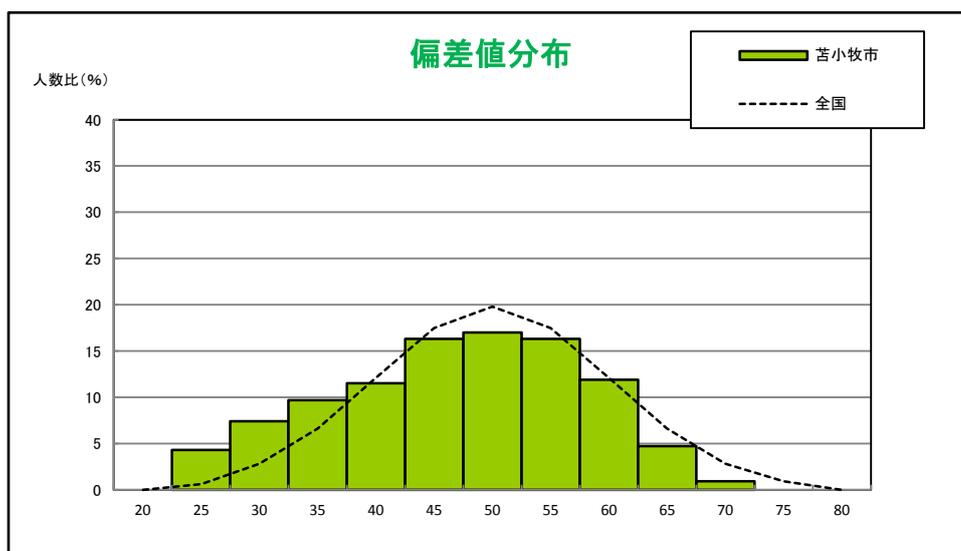


(3) 能力別得点率

	認知・理解力	思考・分析力	応用・判断力	説明・表現力
苫小牧市全体得点率 (%)	68.1	59.7	54.1	24.3
全国得点率 (%)	74.8	65.0	60.4	30.1
全国との差	▲ 6.7	▲ 5.3	▲ 6.3	▲ 5.8
苫小牧市偏差値 (今年度)	46.3	47.7	47.5	47.3
前年度同集団偏差値	—	—	—	—
偏差値推移 (今年度—前年度)	—	—	—	—
前年度同学年偏差値	48.1	48.3	48.4	48.5
偏差値推移 (今年度—前年度)	▲ 1.8	▲ 0.6	▲ 0.9	▲ 1.2



(4) 偏差値分布



偏差値平均 46.7

(5) 課題のある小問についての分析

大問8(1)

【大きい数・小数・分数】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	46.4	56.8	▲ 10.4	52.3	▲ 5.9
出題のねらい	数直線の目盛りを読むことができる。				
対策	分数を数直線上に表す場合、小数などの十進数と同様に、1を10等分して目盛りを打つと考えてしまう児童がいる。分数は、10等分して下位単位をつくるのではなく、1を任意個に等分して単位をつくること、分母は等分の仕方を示し、分子は集めた個数を示すことを確認したい。液量や長さなど具体的な量を測定したり、図を読んだりする活動を通して、これらの理解を確実にすることが大切である。その上で、提示された数直線では、1をいくつに等分しているか、その1つ分はどのような分数で表せるかを考えさせ、数直線上に示された↑の目盛りが表す分数を捉えさせるとよい。				

大問23

【円と球・三角形】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	54.1	64.3	▲ 10.2	56.9	▲ 2.8
出題のねらい	箱にぴったり入った3個の球の半径から箱の横の長さを求めることができる。				
対策	平面にかかれた図を見て、三次元空間の広がりをつかむことが苦手な児童もいる。本問の場合、図と同じ具体物を用意し、それを見てどこの長さを求めるのかを考えさせたい。その上で、ぴったりくっついた3つの円の図をかかせるなど、二次元の図に変換させることが大切である。二次元の図から、ボールの半径や直径の大きさを考えさせ、図の端から端までの長さを求める式を考えさせるとよい。				

大問26(2)

【□を使った式】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	44.1	56.3	▲ 12.2	45.1	▲ 1.0
出題のねらい	文章題を、□を使ったひき算の式に表すことができる。				
対策	未知数を□として、数量関係を式に表したり、その式を読んだりする力を付けることが必要である。そのための有効な手立てとして、数量の関係をテープ図で表す方法がある。基本は $a + b = c$ であり、その関係を1本のテープ図に表すことで、数量の関係を視覚的に捉えることができ、演算決定も容易になる。本問では、問題文から分からない数は何かを考え、それを□人とする。そして、□人と13人、25人の関係を考えて立式する。テープ図を活用する力を育てるには、テープ図を読んだり、かいたりする経験を積み重ねることが大切である。				

大問29(2)

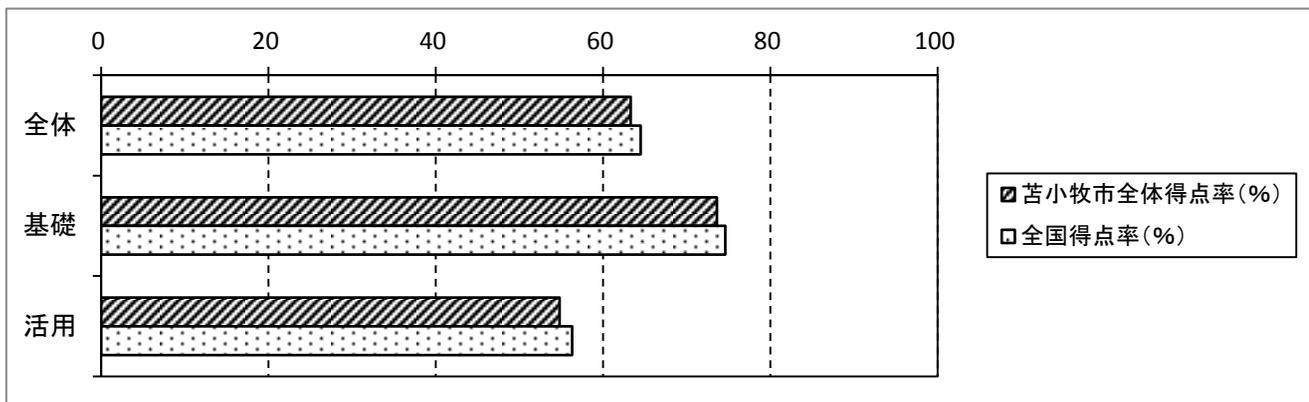
【ぼうグラフと表】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	56.0	61.9	▲ 5.9	54.9	1.1
出題のねらい	表の値を棒グラフに表すことができる。				
対策	観点を決めて資料を集め、それを表に整理することは、統計的な処理の基礎・基本である。また、表に整理したデータを棒グラフに表すことによって、何が多くて何が少ないかなどが一目で分かる。このことを理解させることが大切である。棒グラフを読む場合に大事なことは、縦軸を見て、1目盛りの大きさを捉えることである。本問では、グラフの1目盛りは1人を表しているため、人数が8人の学芸会の棒をかくには、8ます分塗ればよいことを確認させたい。				

■小学校5年生 国語

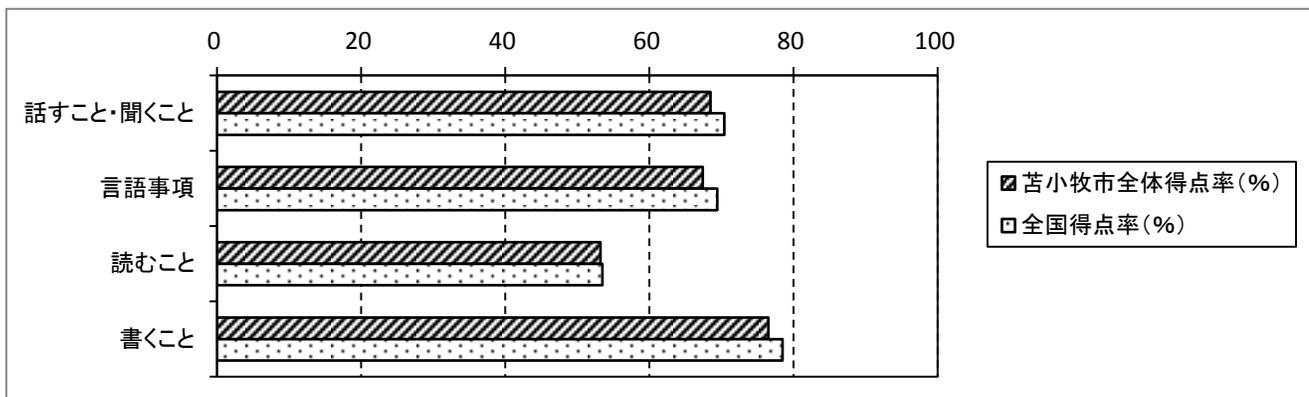
(1) 基礎・活用別得点率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体得点率(%)	63.3	73.6	54.8
全国得点率(%)	64.5	74.6	56.3
全国との差	▲ 1.2	▲ 1.0	▲ 1.5
苫小牧市偏差値(今年度)	49.3	49.5	49.3
前年度同集団偏差値	48.8	48.4	49.4
偏差値推移(今年度-前年度)	0.5	1.1	▲ 0.1
前年度同学年偏差値	48.6	48.7	48.7
偏差値推移(今年度-前年度)	0.7	0.8	0.6



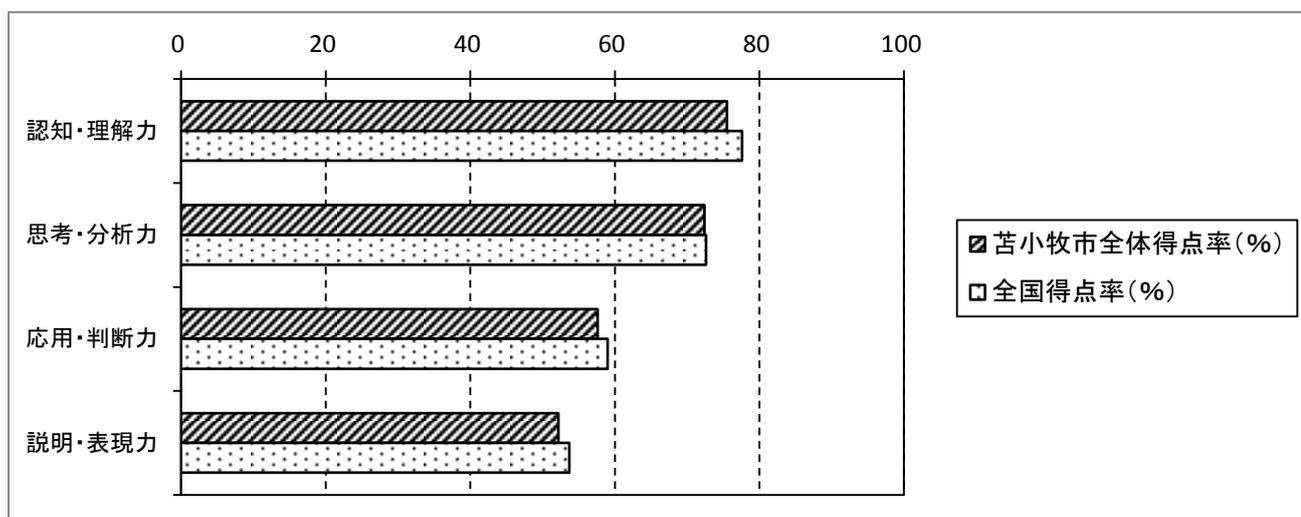
(2) 領域別得点率

	話すこと・ 聞くこと	言語事項	読むこと	書くこと
苫小牧市全体得点率(%)	68.5	67.4	53.2	76.5
全国得点率(%)	70.4	69.4	53.5	78.5
全国との差	▲ 1.9	▲ 2.0	▲ 0.3	▲ 2.0
苫小牧市偏差値(今年度)	49.2	49.0	49.9	49.4
前年度同集団偏差値	49.9	47.4	49.1	49.8
偏差値推移(今年度-前年度)	▲ 0.7	1.6	0.8	▲ 0.4
前年度同学年偏差値	49.1	47.7	49.8	48.4
偏差値推移(今年度-前年度)	0.1	1.3	0.1	1.0

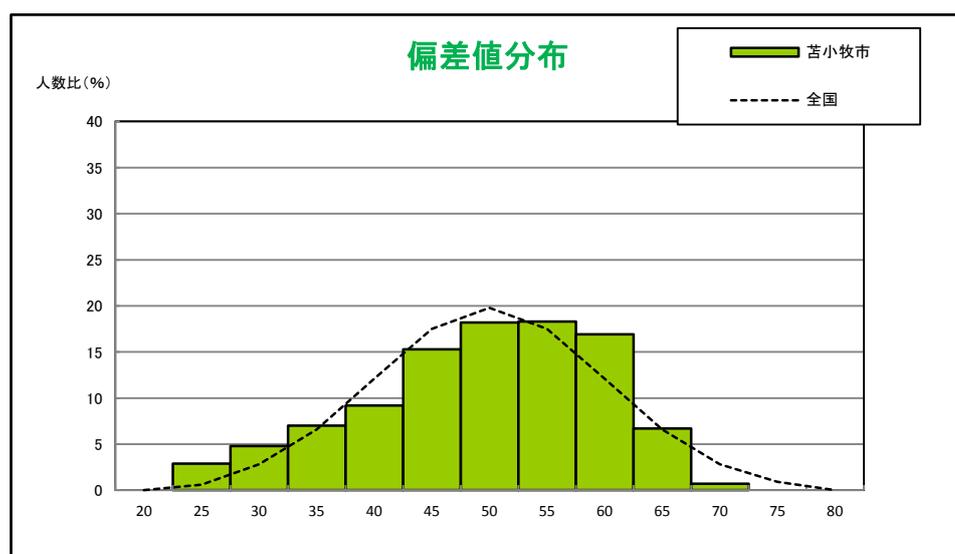


(3) 能力別得点率

	認知・理解力	思考・分析力	応用・判断力	説明・表現力
苫小牧市全体得点率 (%)	75.5	72.4	57.6	52.2
全国得点率 (%)	77.6	72.6	59.0	53.7
全国との差	▲ 2.1	▲ 0.2	▲ 1.4	▲ 1.5
苫小牧市偏差値 (今年度)	48.9	49.9	49.4	49.3
前年度同集団偏差値	48.1	48.8	48.8	49.9
偏差値推移 (今年度-前年度)	0.8	1.1	0.6	▲ 0.6
前年度同学年偏差値	47.6	49.5	49.2	48.6
偏差値推移 (今年度-前年度)	1.3	0.4	0.2	0.7



(4) 偏差値分布



偏差値平均 49.3

(5) 課題のある小問についての分析

大問1(2)

【話し合いの内容の聞き取り】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	38.4	42.1	▲ 3.7	39.7	▲ 1.3
出題のねらい	話の中心に気をつけて聞いて自分の考えをまとめ、説明することができる。				
対策	文房具屋さん、「スーパーやコンビニエンスストアのすぐれている点」と「文房具の専門店としてのよさ」について話しており、本問では、前者の内容が問われている。インタビューの内容と、その答えを分けてメモすることが大切であり、「なんでもそろっている」という特徴を聞き取れるかどうか、鍵となる。中学年では、調べ学習を多く行っており、インタビューの経験も回数を重ねている。単にインタビューの活動を経験させるだけでなく、何を知りたいか、何を聞いたかをメモし、後からメモを活用しまとめる学習経験を多く積ませる必要がある。				

大問2(1)③

【漢字の読み】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	67.0	77.4	▲ 10.4	68.2	▲ 1.2
出題のねらい	第4学年までに学習した漢字を読むことができる。				
対策	5年生では、国語の1年間の授業時数は175時間と、4年生の245時間に比べて大幅に減少する。漢字練習は、单元ごとに掲示したり、家庭学習で習慣化したり、1週間ごとの小テストを繰り返したりするなど、自ら学習することにより、定着させることが大切である。また、日頃から、漢字を使って文章を書くことを習慣付ける必要がある。分からない漢字、忘れてしまった漢字は、すぐに辞書で調べさせるなど、漢字を使用することを習慣化したい。				

大問3(4)②イ

【語句・文法に関する知識】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	70.3	75.3	▲ 5.0	69.5	0.8
出題のねらい	主語・述語、修飾・被修飾の関係を正しくとらえ、判断することができる。				
対策	本問では、「ゆっくりと」が「出る」を修飾していることを理解できることがポイントとなる。述語を修飾している語が主語の前にある場合は、修飾・被修飾の関係を理解しにくいので、注意を要する。まず、主語「船が」、述語「出る」を捉え、次に、主語と述語を修飾している語を理解するようにするとよい。このような文構成を文章の中で取り上げ、慣れさせることが大切である。「国語の特質に関する事項」については、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域の中で並行して学習することが効果的である。				

大問5(4)①

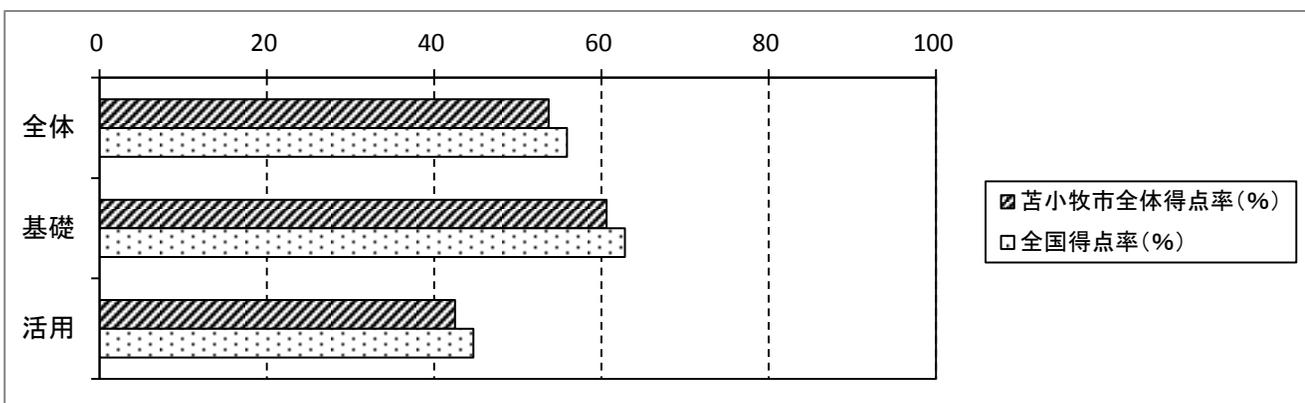
【説明文の読み取り】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	41.1	43.1	▲ 2.0	41.4	▲ 0.3
出題のねらい	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえながら読むことができる。				
対策	問題文の初めに、「身近なすいみんについて調べ、……。次の文章は、すいみん時間のとり方についての資料です。」とあり、山中さんのクラスで行う学習活動の目的が明確に書かれている。資料中の表ではなく、文章を読み取ることが求められていることに注意させたい。「お年よりは、二、三才の子どもの半分でよいといわれています。」という文に着目すると、「十二時間」の半分の「六時間」が正答であることが分かる。本問では、壁新聞にまとめるための情報を、文章や表から読み取る力が問われている。目的のために情報を読み取り、それを活用する力を身に付ける必要がある。				

■小学校5年生 算数

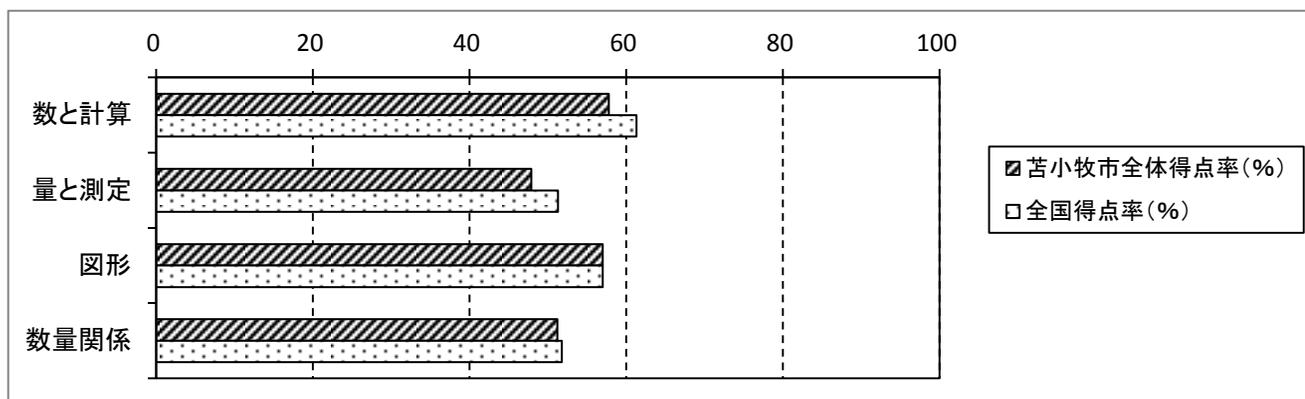
(1) 基礎・活用別得点率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体得点率(%)	53.7	60.6	42.5
全国得点率(%)	55.9	62.8	44.7
全国との差	▲ 2.2	▲ 2.2	▲ 2.2
苫小牧市偏差値(今年度)	48.9	48.9	49.0
前年度同集団偏差値	48.0	48.1	48.2
偏差値推移(今年度-前年度)	0.9	0.8	0.8
前年度同学年偏差値	48.1	48.1	48.3
偏差値推移(今年度-前年度)	0.8	0.8	0.7



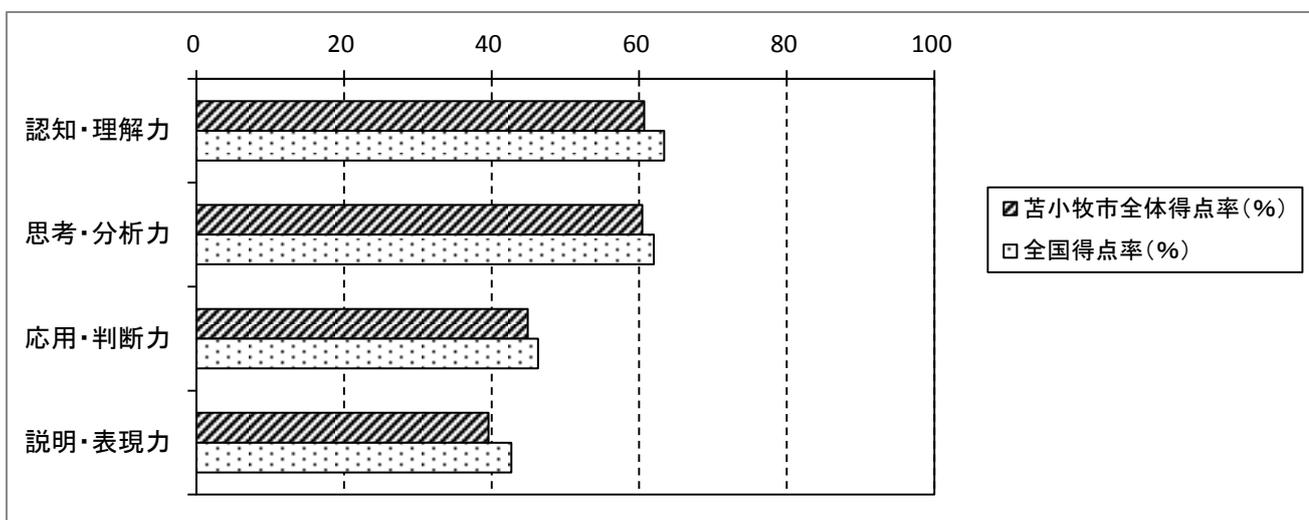
(2) 領域別得点率

	数と計算	量と測定	図形	数量関係
苫小牧市全体得点率(%)	57.8	47.9	57.0	51.2
全国得点率(%)	61.3	51.3	57.0	51.8
全国との差	▲ 3.5	▲ 3.4	0.0	▲ 0.6
苫小牧市偏差値(今年度)	48.4	48.4	50.0	49.8
前年度同集団偏差値	47.7	48.3	48.5	49.5
偏差値推移(今年度-前年度)	0.7	0.1	1.5	0.3
前年度同学年偏差値	47.7	48.5	48.6	49.2
偏差値推移(今年度-前年度)	0.7	▲ 0.1	1.4	0.6

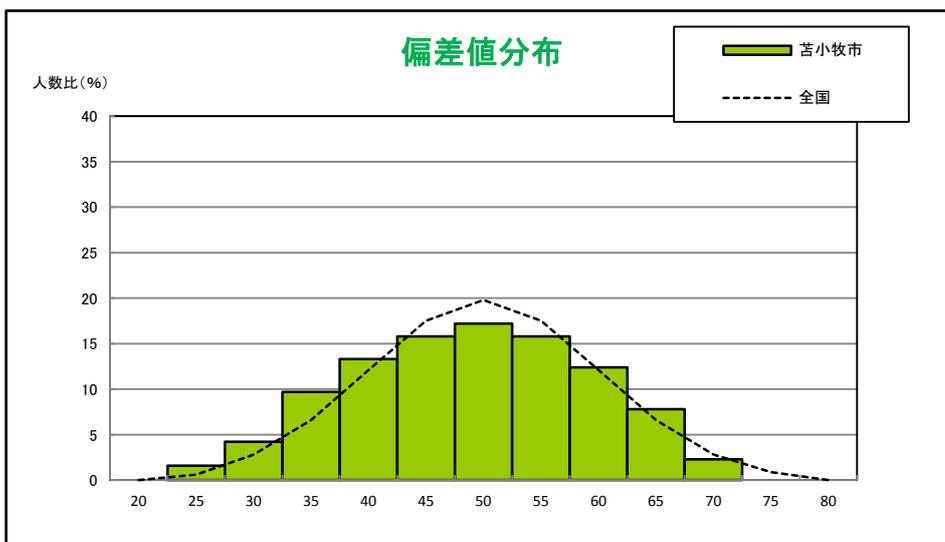


(3) 能力別得点率

	認知・理解力	思考・分析力	応用・判断力	説明・表現力
苫小牧市全体得点率 (%)	60.7	60.4	44.9	39.6
全国得点率 (%)	63.4	62.0	46.3	42.7
全国との差	▲ 2.7	▲ 1.6	▲ 1.4	▲ 3.1
苫小牧市偏差値 (今年度)	48.7	49.3	49.3	49.0
前年度同集団偏差値	48.1	48.3	48.4	48.5
偏差値推移 (今年度—前年度)	0.6	1.0	0.9	0.5
前年度同学年偏差値	48.1	48.5	48.9	48.2
偏差値推移 (今年度—前年度)	0.6	0.8	0.4	0.8



(4) 偏差値分布



偏差値平均 | 48.9

(5) 課題のある小問についての分析

大問5(2)

【小数】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	31.1	40.3	▲ 9.2	30.7	0.4
出題のねらい	小数を用いてメートルの単位換算ができる。				
対策	本問では、4年生で学習した1/100を単位とする小数の意味と表し方を理解していること、また小数の場合も数の相対的な見方ができることが必要となる。まず、109cmを100cmと9cmに分けて考える。100cmが1mであることは学習済みであるが、9cmを何mと表せばよいかを課題である。ここで、1cmは、100cm(1m)を単位とすると0.01に当たるとを想起させたい。すなわち、1cmは0.01m、従って9cmは0.09mということになる。このように分けて換算すると分かりやすくなる。				

大問7(1)②

【分数】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	38.9	49.1	▲ 10.2	38.8	0.1
出題のねらい	数直線から読み取った分数を仮分数で表すことができる。				
対策	数直線を読む場合、1目盛りの大きさを捉えることが大切である。そのためには、目盛りが1を何等分してできているかを読み取らせる必要がある。提示された数直線の場合、目盛りは1を何等分しているかを読み取らせ、8等分してできていることを確認する。その上で、1目盛りの大きさを何と表せばよいかを考えさせる。1目盛りの大きさが1/8と分かったら、目盛りを順に1/8、2/8、3/8…と表せることを確認し、(あ)の目盛りが表す数を考えさせるとよい。				

大問14

【角の大きさ】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	58.5	68.3	▲ 9.8	56.7	1.8
出題のねらい	三角定規を使って、ある大きさの角をつくることことができる。				
対策	2種類の三角定規の角を並べるとどんな大きさの角ができるか、いろいろな組み合わせを考えて、実際にやってみるとよい。(あ)と(え)を並べると75°、(あ)と(お)を並べると135°、(あ)と(か)を並べると105°、(う)と(え)を並べると120°、(う)と(お)を並べると180°、(う)と(か)を並べると150°という具合である。また、重ねてできる角の大きさは、(あ)と(え)を重ねると15°、(あ)と(お)を重ねると45°、(あ)と(か)を重ねると15°などである。いろいろな組み合わせを順序よく考えると、落ちや重なりができないことにも気付かせたい。				

大問30

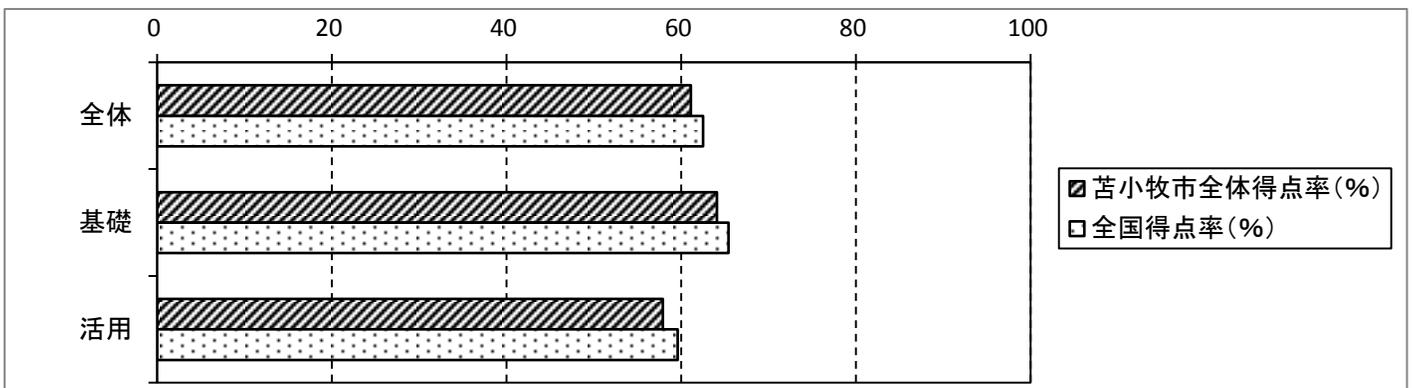
【変わり方調べ】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	33.3	42.0	▲ 8.7	37.6	▲ 4.3
出題のねらい	伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことができる。				
対策	問題の図のように、正方形の一辺の長さを変えていくとき、伴って変わる量として何かあるのかという見方・考え方ができるようにしたい。図のように一辺の長さが変化していくとき、それに伴って変わるのは「まわりの長さ」だけでなく、面積も変わっていく。本問では、まわりの長さに着目して、2量の変わり方のきまりを見つけ、その関係を式で表すことを求めている。その場合、表を縦に見る、つまり対応の関係を見ることが必要であり、(1と4)(2と8)…から、一辺の長さの4倍が周りの長さになっていることが分かる。このことから、 $\square \times 4 = \bigcirc$ という式ができる。				

■小学校6年生 国語

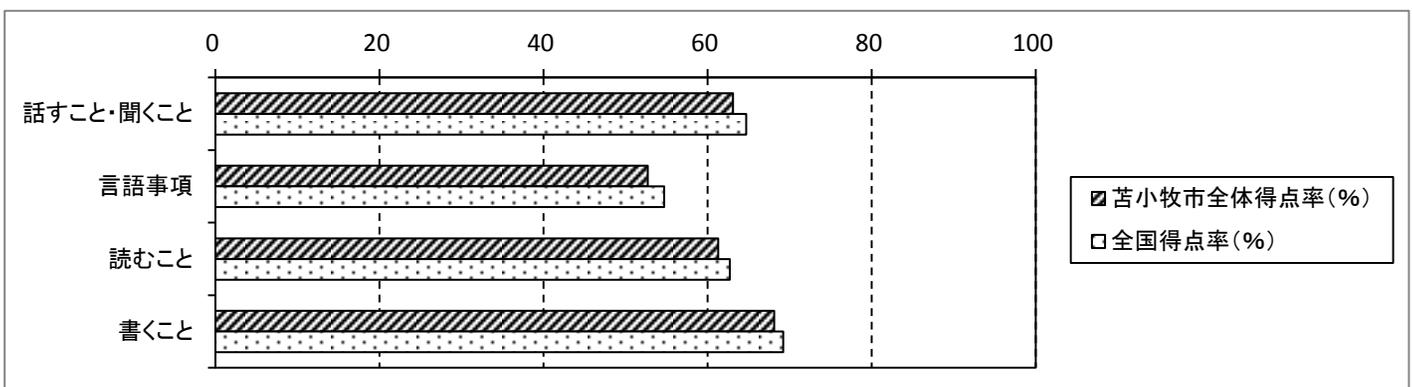
(1) 基礎・活用別得点率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体得点率(%)	61.1	64.1	57.9
全国得点率(%)	62.5	65.4	59.6
全国との差	▲ 1.4	▲ 1.3	▲ 1.7
苫小牧市偏差値(今年度)	49.2	49.3	49.2
前年度同集団偏差値	48.6	48.7	48.7
偏差値推移(今年度-前年度)	0.6	0.6	0.5
前年度同学年偏差値	47.4	47.7	47.5
偏差値推移(今年度-前年度)	1.8	1.6	1.7



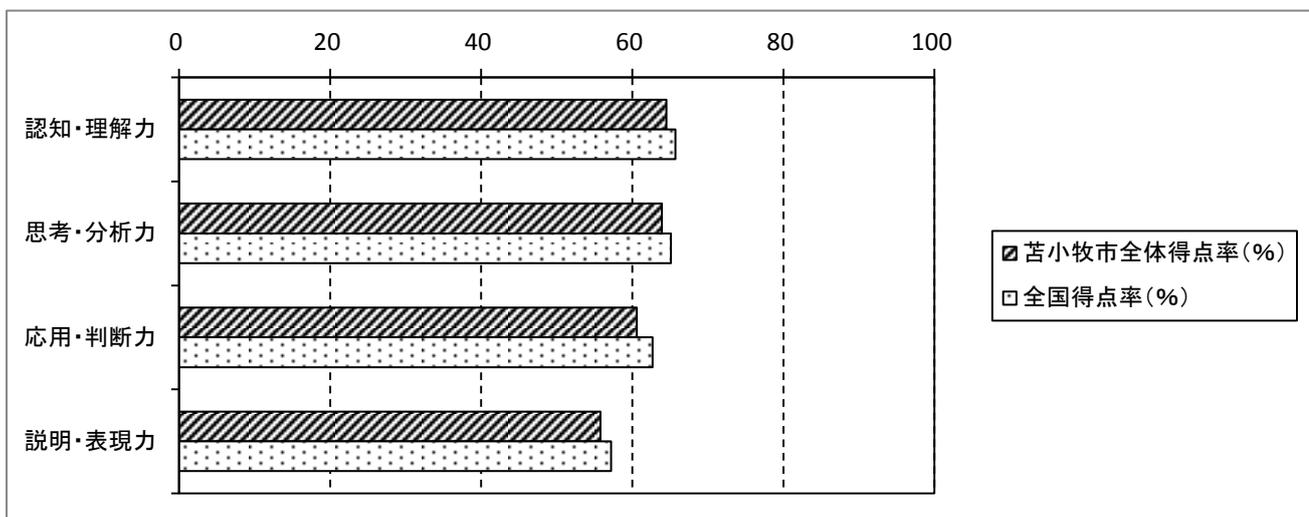
(2) 領域別得点率

	話すこと・ 聞くこと	言語事項	読むこと	書くこと
苫小牧市全体得点率(%)	63.1	52.7	61.3	68.1
全国得点率(%)	64.7	54.7	62.7	69.2
全国との差	▲ 1.6	▲ 2.0	▲ 1.4	▲ 1.1
苫小牧市偏差値(今年度)	49.3	49.1	49.3	49.7
前年度同集団偏差値	49.1	47.7	49.8	48.4
偏差値推移(今年度-前年度)	0.2	1.4	▲ 0.5	1.3
前年度同学年偏差値	48.9	47.3	49.0	46.5
偏差値推移(今年度-前年度)	0.4	1.8	0.3	3.2

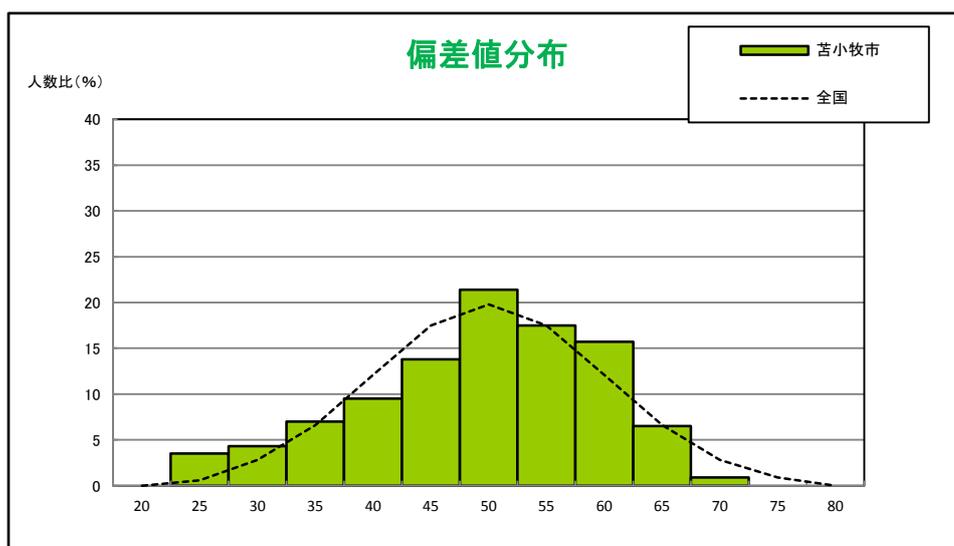


(3) 能力別得点率

	認知・理解力	思考・分析力	応用・判断力	説明・表現力
苫小牧市全体得点率 (%)	64.5	63.9	60.6	55.8
全国得点率 (%)	65.7	65.1	62.7	57.2
全国との差	▲ 1.2	▲ 1.2	▲ 2.1	▲ 1.4
苫小牧市偏差値 (今年度)	49.4	49.4	49.2	49.4
前年度同集団偏差値	47.6	49.5	49.2	48.6
偏差値推移 (今年度-前年度)	1.8	▲ 0.1	0.0	0.8
前年度同学年偏差値	46.5	49.1	49.4	46.7
偏差値推移 (今年度-前年度)	2.9	0.3	▲ 0.2	2.7



(4) 偏差値分布



偏差値平均 49.2

(5) 課題のある小問についての分析

大問1(2)

【話し合いの内容の聞き取り】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	43.9	47.8	▲ 3.9	41.9	2.0
出題のねらい	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞くことができる。				
対策	本問では、誰がどのような意見を述べ、その理由は何かを聞き取らなければならない。田中さんの前に発言したのは山田さんであり、田中さんは、山田さんの「決まりを作る」という意見に対して、「決まりを守らなかったらどうするかを決める」「担任の先生に報告して注意してもらおう」という意見を発表している。話し合いの内容の聞き取りでは、必要な情報を聞き取り、メモする力を付けることが大切である。係会、学級会、委員会、代表委員会など、意見を述べたり、記録したりする経験を通して、人の話を聞き取り、情報をメモする習慣を付けるよう、指導を積み重ねる必要がある。				

大問2(2)⑥

【漢字の書き】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	50.5	59.8	▲ 9.3	46.9	3.6
出題のねらい	第5学年までに学習した漢字を書くことができる。				
対策	学校では、漢字練習や小テストを繰り返し行っているが、定着するまでの練習時間には個人差がある。練習の方法としては、同じ文字を1ページ書く学習よりも、書き順や送り仮名を覚えるために1行、熟語として2行、残りは文として漢字を使う練習をする方が望ましい。問題にあるような、短文を書く中で漢字を書けるようにする練習は、家庭学習として定着させたい。学校においては、様々な教科で、文章を書く活動を行っている。その際、分からない漢字は、すぐに辞書で調べさせるなど、日頃から、漢字を使って文章を書く習慣を付けることが大切である。				

大問3(5)②

【語句・文法に関する知識】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	43.3	50.2	▲ 6.9	46.9	▲ 3.6
出題のねらい	敬語の使い方がわかる。				
対策	高学年では、相手と自分との関係を意識させながら、尊敬語や謙譲語をはじめ、丁寧な言い方について理解させておく必要がある。ここでは、正しい謙譲語と尊敬語の使い方を理解していることが大切であり、「参る」「伺う」は謙譲語であること、また、主語は誰かを捉えることがポイントである。選択肢③は、「先生は」が主語であるため、尊敬語の「いらっしゃった」が正しい。選択肢④は、「お医者さんは」が主語であるため、正しくは「くださった」である。学習後に敬語の使い方が定着するよう、日頃から、尊敬語や謙譲語を使う習慣を付けることが大切である。				

大問6(2)

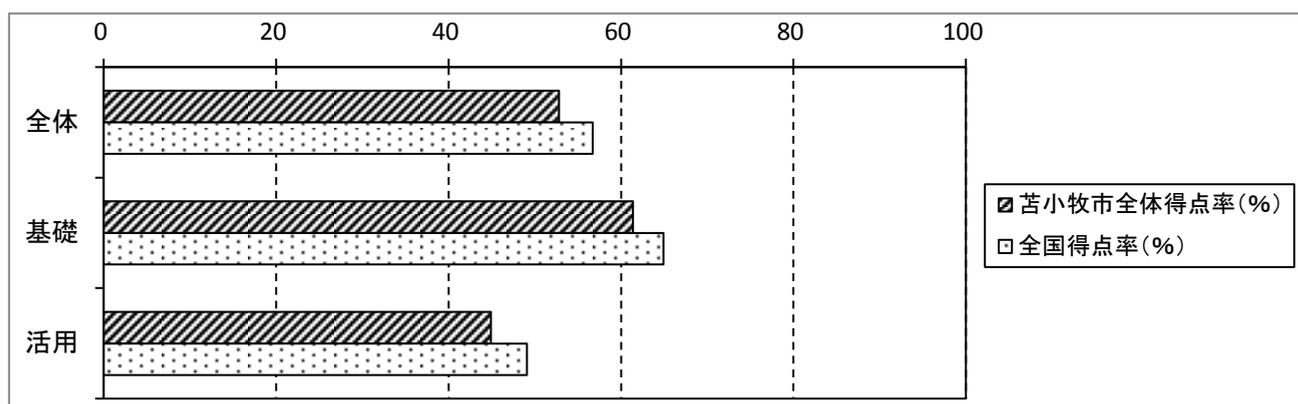
【作文】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	60.5	65.2	▲ 4.7	53.5	7.0
出題のねらい	全体を見通して、書く必要のある事柄を整理して書くことができる。				
対策	作文を書く問題では、「何を」「どのように」書くのかを理解した上で書くことが大切である。第1段落で、自分の提案する「1年生との交流を深めるための活動あるいは行事」を具体的に説明し、第2段落で、それによってどのように交流が深まるかを明確に述べる。重要なのは、何を提案するのかを明確にし、分かりやすく書くこと、具体的な内容とその効果を2段落に分けて書くことである。日頃から、自分の考えをもつ訓練と、200字程度の短い文章を書きまとめるなどの伝え合う力を高める指導を行いたい。				

■小学校6年生 算数

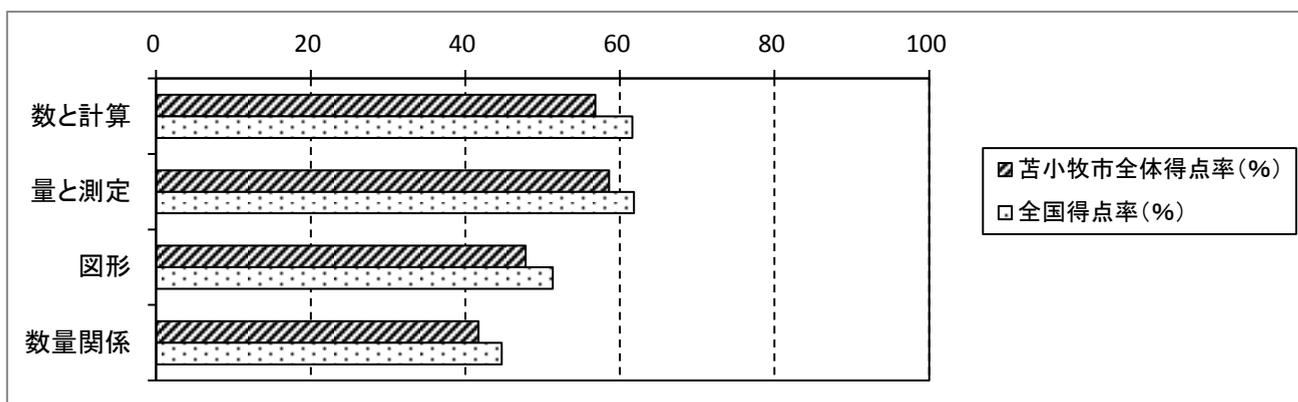
(1) 基礎・活用別得点率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体得点率(%)	52.8	61.4	44.9
全国得点率(%)	56.7	64.9	49.1
全国との差	▲ 3.9	▲ 3.5	▲ 4.2
苫小牧市偏差値(今年度)	48.0	48.2	48.1
前年度同集団偏差値	48.1	48.1	48.3
偏差値推移(今年度-前年度)	▲ 0.1	0.1	▲ 0.2
前年度同学年偏差値	47.0	47.1	47.2
偏差値推移(今年度-前年度)	1.0	1.1	0.9



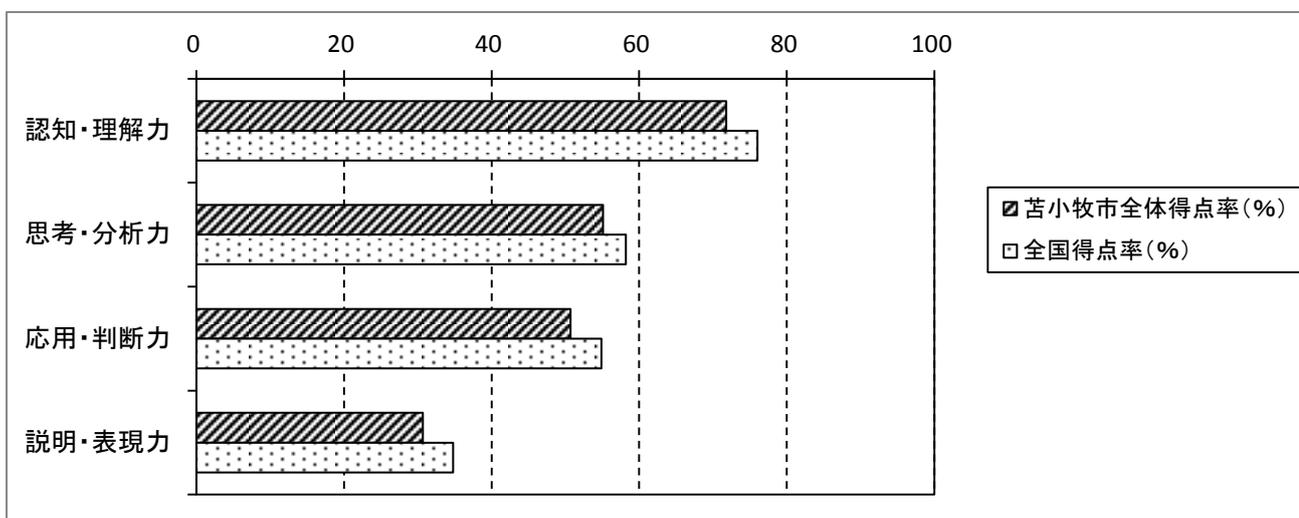
(2) 領域別得点率

	数と計算	量と測定	図形	数量関係
苫小牧市全体得点率(%)	56.8	58.6	47.8	41.7
全国得点率(%)	61.6	61.8	51.3	44.7
全国との差	▲ 4.8	▲ 3.2	▲ 3.5	▲ 3.0
苫小牧市偏差値(今年度)	48.0	48.5	48.6	48.9
前年度同集団偏差値	47.7	48.5	48.6	49.2
偏差値推移(今年度-前年度)	0.3	0.0	0.0	▲ 0.3
前年度同学年偏差値	47.0	47.9	47.8	47.7
偏差値推移(今年度-前年度)	1.0	0.6	0.8	1.2

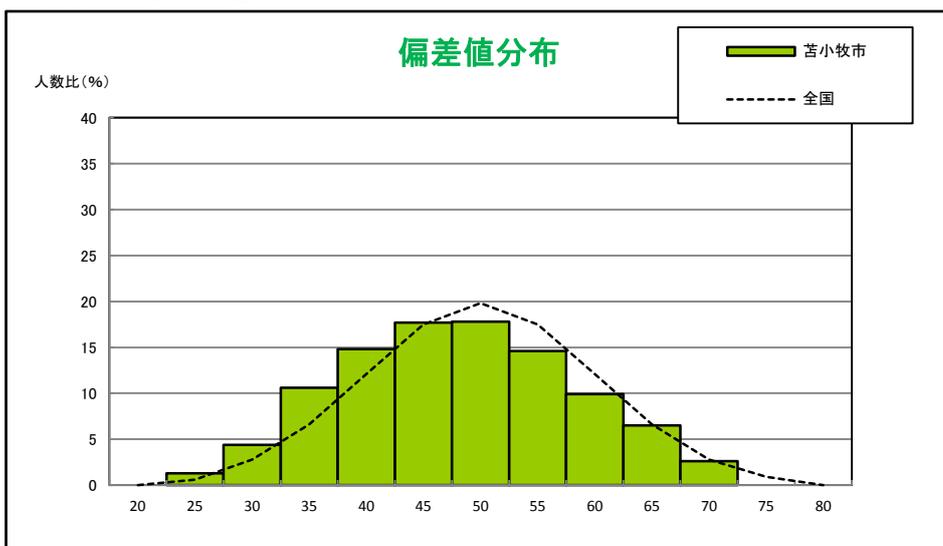


(3) 能力別得点率

	認知・理解力	思考・分析力	応用・判断力	説明・表現力
苫小牧市全体得点率 (%)	71.8	55.1	50.7	30.7
全国得点率 (%)	76.0	58.2	54.9	34.8
全国との差	▲ 4.2	▲ 3.1	▲ 4.2	▲ 4.1
苫小牧市偏差値 (今年度)	48.1	48.5	48.1	48.6
前年度同集団偏差値	48.1	48.5	48.9	48.2
偏差値推移 (今年度-前年度)	0.0	0.0	▲ 0.8	0.4
前年度同学年偏差値	47.1	47.5	47.3	47.7
偏差値推移 (今年度-前年度)	1.0	1.0	0.8	0.9



(4) 偏差値分布



偏差値平均 48.0

(5) 課題のある小問についての分析

大問1(2)

【分数と小数】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	31.5	37.9	▲ 6.4	25.0	6.5
出題のねらい	小数を分数に直すことができる。				
対策	1.4という数は、1と0.4を合わせた数である、という構成的な理解が1つのポイントになる。また、目盛りの付いた1リットル升や数直線等を使って、1を10等分した1つ分を0.1、又は1/10と表すことを確認する。そして、0.4は0.1の4つ分、つまり4/10であることを、小数と分数の両方で表した数直線で確かめさせる必要がある。さらに、分数は、分子、分母に同じ数をかけても、同じ数でわっても大きさは変わらないことを図で確かめさせ、理解させる。総括的に言えば、小数と分数を関連付けた指導が大切である。				

大問10(2)

【整数のなかま分け】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	34.9	42.5	▲ 7.6	34.1	0.8
出題のねらい	公約数を求めて、問題を解くことができる。				
対策	公約数の意味の正しい理解が前提となる。封筒12枚を余りが出ないように配るには、人数が12の約数、便箋30枚を余りが出ないように配るには、人数が30の約数でなければならない。そう考えると、12と30に共通の約数であれば、封筒も便箋も余りが出ないように配ることができる。すなわち、公約数を見つければよい。公約数の基本的な見つけ方としては、二つの数の約数をすべて別々に見つけて、これらの中から共通の約数を取り出す。12の約数は{1、2、3、4、6、12}、30の約数は{1、2、3、5、6、10、15、30}、共通の約数は{1、2、3、6}であることを確認したい。				

大問19(1)

【円周】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	31.8	35.1	▲ 3.3	32.0	▲ 0.2
出題のねらい	正方形と扇形を組み合わせた図形の周りの長さを求めることができる。				
対策	本問では、曲線部分が円周の1/4であることに気付くことと、円周を求める公式を正しく理解していることがポイントである。誤答は、図の曲線部分だけを求めている解答が27.8%、円周を求める式を半径×円周率とした解答が20.0%あった。前者については、かげの部分の周りをなぞらせるなどして、どの長さを求めているのかを確認させたい。また、後者については、円と外接する正方形の図を使って、円周が直径の3倍と4倍の間にあることを確認し、円周＝直径×円周率であることを想起させたい。				

大問26(1)

【百分率とグラフ】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	35.6	43.1	▲ 7.5	34.4	1.2
出題のねらい	円グラフを読み取り、比べられる大きさを求めることができる。				
対策	円グラフは、資料がどのような事柄によって構成され、それぞれの割合がどのようになっているかを、1つの円を全体として表したグラフである。円グラフを読む場合、割合についての理解が不可欠である。「25%」は、「全体(もとにする大きさ)を100としたとき、比べられる大きさが25に当たる割合」を表しているという理解することが基盤となる。100のうちの25だから、1/4に当たる大きさということも確認させたい。全体を1とすると0.25に当たる大きさという理解から、340冊の25%は340×0.25で求めさせるとよい。				

苫小牧市教育委員会・中学校 「平成29年度 苫小牧市統一学力検査」 考察資料

■ 検査目的

- 苫小牧市内の中学校生徒の学習状況を検査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

■ 検査内容

- 全国学力検査（集団準拠調査 NRT）東京書籍

■ 検査対象

- 苫小牧市内の公立中学校1・2年生の生徒
- 検査対象教科は、国語・数学

■ 検査結果

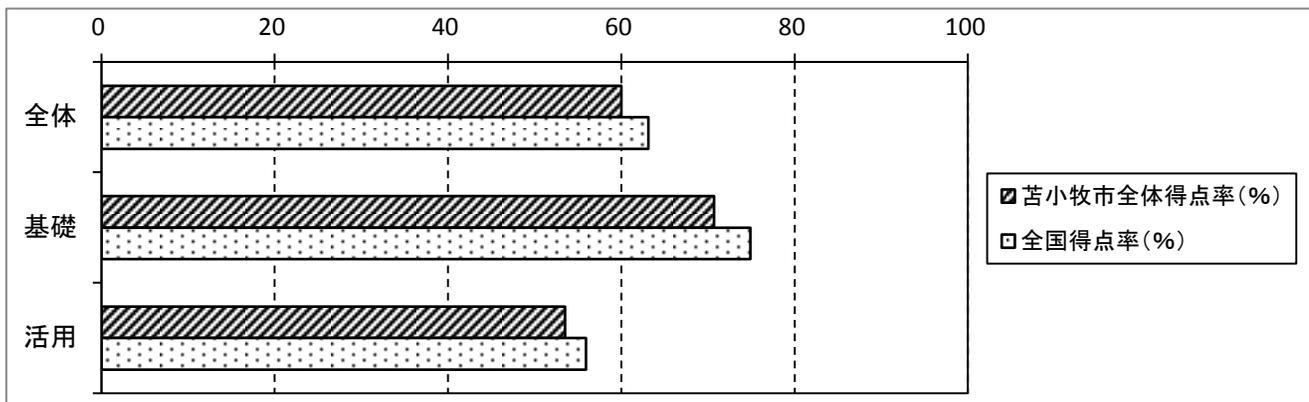
【中学校の検査結果】

		苫小牧市全体 得点率 (%)	全国得点率 (%)	全国との差	受検者数
中学校・ 1年生	国語	60.1	62.2	▲ 2.1	1431
	数学	56.6	58.9	▲ 2.3	1432
中学校・ 2年生	国語	52.6	58.0	▲ 5.4	1527
	数学	50.8	54.0	▲ 3.2	1527

■中学校1年生 国語

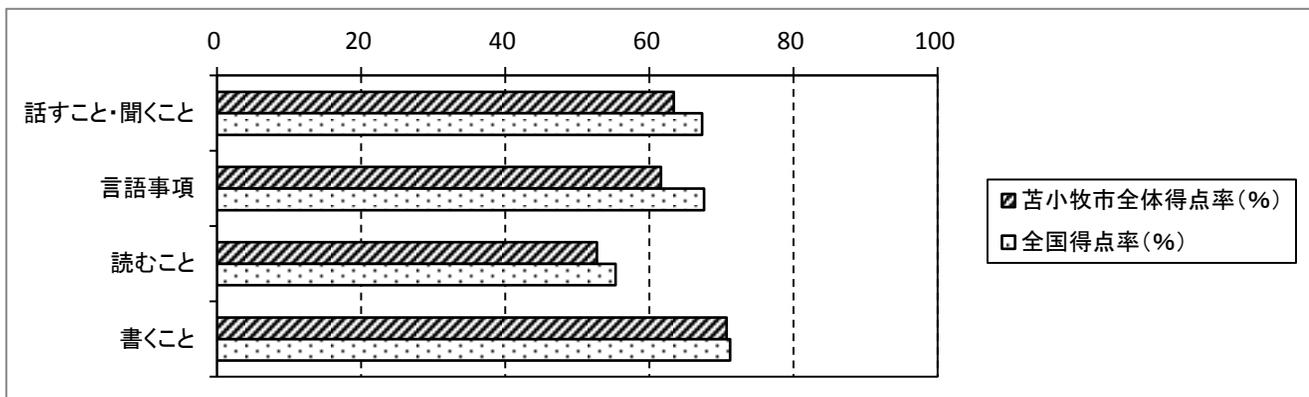
(1) 基礎・活用別得点率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体得点率(%)	60.0	70.7	53.5
全国得点率(%)	63.1	74.9	55.9
全国との差	▲ 3.1	▲ 4.2	▲ 2.4
苫小牧市偏差値(今年度)	48.3	47.6	48.8
前年度同集団偏差値	47.4	47.7	47.5
偏差値推移(今年度-前年度)	0.9	▲ 0.1	1.3
前年度同学年偏差値	48.9	48.9	49.0
偏差値推移(今年度-前年度)	▲ 0.6	▲ 1.3	▲ 0.2



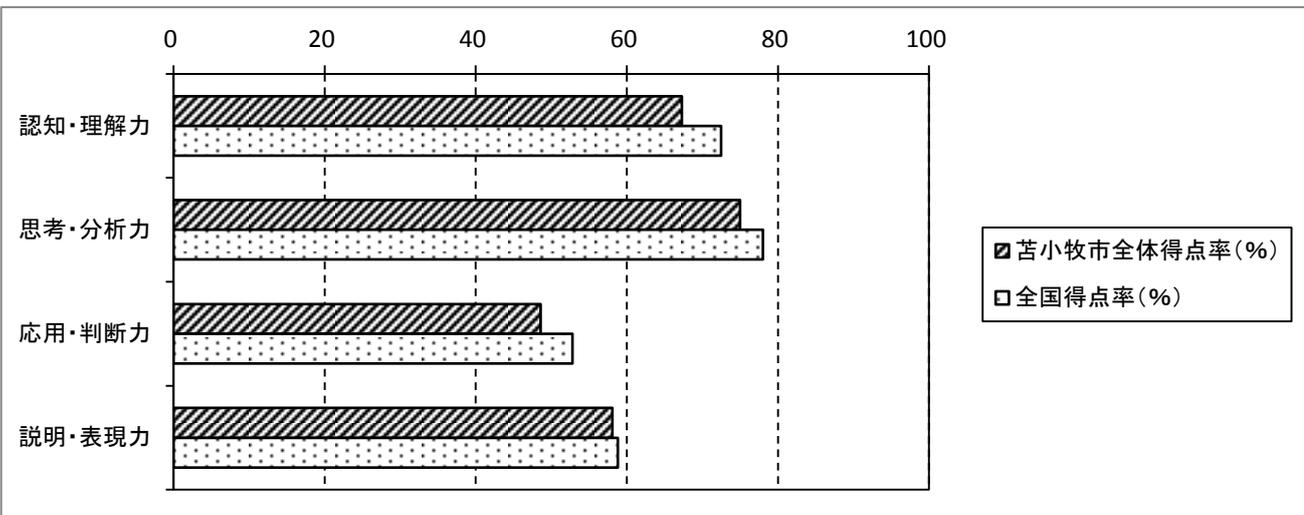
(2) 領域別得点率

	話すこと・ 聞くこと	言語事項	読むこと	書くこと
苫小牧市全体得点率(%)	63.4	61.6	52.7	70.7
全国得点率(%)	67.3	67.6	55.3	71.2
全国との差	▲ 3.9	▲ 6.0	▲ 2.6	▲ 0.5
苫小牧市偏差値(今年度)	48.3	47.2	48.8	49.8
前年度同集団偏差値	48.9	47.3	49.0	46.5
偏差値推移(今年度-前年度)	▲ 0.6	▲ 0.1	▲ 0.2	3.3
前年度同学年偏差値	49.4	47.9	49.9	48.9
偏差値推移(今年度-前年度)	▲ 1.1	▲ 0.7	▲ 1.1	0.9

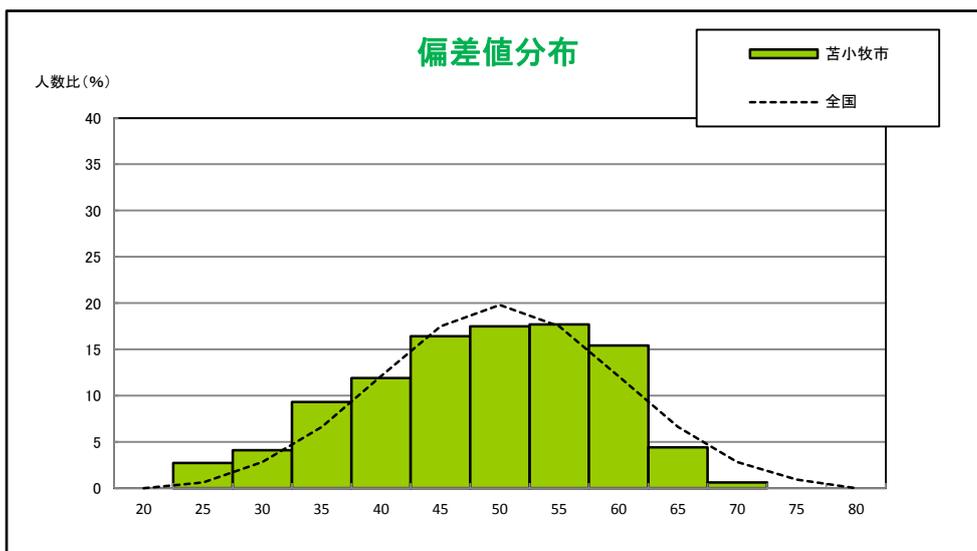


(3) 能力別得点率

	認知・理解力	思考・分析力	応用・判断力	説明・表現力
苫小牧市全体得点率 (%)	67.3	75.0	48.6	58.1
全国得点率 (%)	72.5	78.0	52.8	58.8
全国との差	▲ 5.2	▲ 3.0	▲ 4.2	▲ 0.7
苫小牧市偏差値 (今年度)	47.5	48.6	48.3	49.7
前年度同集団偏差値	46.5	49.1	49.4	46.7
偏差値推移 (今年度-前年度)	1.0	▲ 0.5	▲ 1.1	3.0
前年度同学年偏差値	48.1	50.3	49.4	48.9
偏差値推移 (今年度-前年度)	▲ 0.6	▲ 1.7	▲ 1.1	0.8



(4) 偏差値分布



偏差値平均 48.3

(5) 課題のある小問についての分析

大問2(2)⑥

【漢字の書き】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	35.0	52.6	▲ 17.6	47.9	▲ 12.9
出題のねらい	小学校で学習した漢字を書くことができる。				
対策	①～⑥の文を読めば、わたしたちの日常生活の中の一場面を切り取ったものであり、自分自身の発言やテレビなどでよく使われていることが理解できる。したがって、漢字の書き取りの問題を解くには、日頃からテレビなどから聞こえる言葉を漢字に変換して内容を理解する習慣を身に付けることがとても大切である。また、本や新聞等を読み、言葉を感じるとともに、漢字にも関心をもつよう指導したい。問題文を読むとき、情景を想像し、その前後の場面も想像できれば、正しい漢字を思い起こすことができる。				

大問3(5)

【文法・語句に関する知識】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	67.2	77.4	▲ 10.2	69.0	▲ 1.8
出題のねらい	文の中の、修飾・被修飾の関係を理解している。				
対策	文を読んでも内容がよく理解できない場合、書き手が「修飾・被修飾の関係を正しく使えていない場合が多い。そのため、高校入試等でもよく出題される。文を読んだら、まず主語と述語を正しく把握することが大切である。次に、その他の語句は主語・述語のどちらをより詳しく説明(修飾)しているかを押さえ、最後にどれにも当てはまらない語句は、どの語句を修飾しているかを押さえる必要がある。日頃から、修飾・被修飾の関係に注意して文章を書くように指導したい。				

大問5(2)

【説明的文章の内容の読み取り】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	23.4	28.5	▲ 5.1	24.2	▲ 0.8
出題のねらい	文章の内容を押さえ、それを具体的な事例にあてはめることができる。				
対策	日本人のあいさつの言葉には、相手を尊敬する心、信頼する心などが込められている。本問で取り上げられている「失礼しました」は、自分の行為を卑下して、相手を尊重する気持ちを込めたあいさつの言葉であり、ここでは同様の使い方をしている例を問うている。選択肢を見てみると、②は自分の失敗を謝罪する言葉、③は相手の行為を許す気持ちを表す言葉、④はお礼の気持ちを表す言葉である。正答の「お粗末でした」は、「失礼しました」と同様、日本人独特のあいさつ表現であることを理解させたい。				

大問6

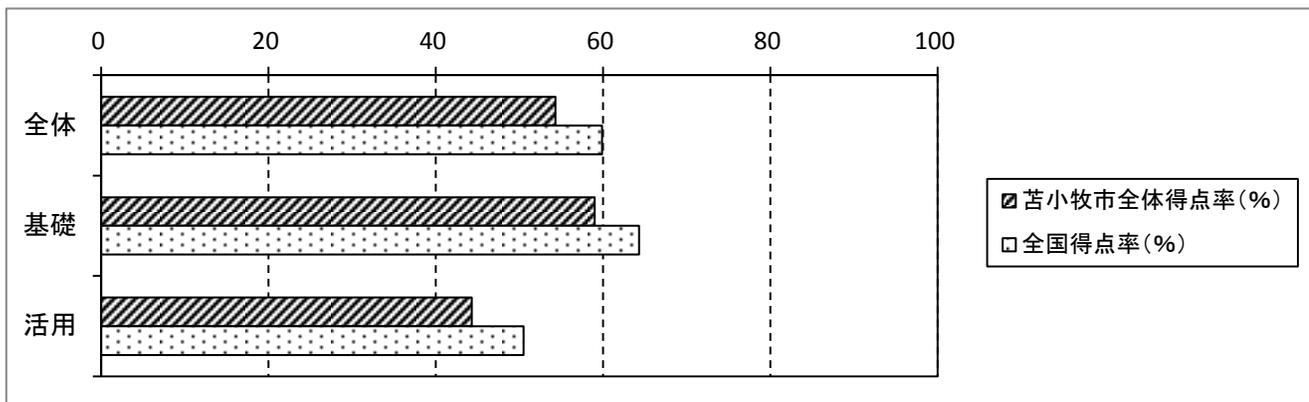
【作文】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	55.1	63.3	▲ 8.2	56.5	▲ 1.4
出題のねらい	全体を見通して、必要な事柄を整理して書き、適切な長さにまとめることができる。				
対策	例文を参考にして、条件(「注意する点」①～⑥)に即して自分の考えを書く問題である。まず、例文の構成が、最初に結論、それに続いて理由が書かれていることを理解する必要がある。そして、この構成に従い、教室にあったらいいと思うものを二つ選ぶ。段落を変えるときは、1文字下げて「次に、」と続けることも確認したい。理由を示すときは、分かりやすいように「なぜならば」などの接続詞を入れ、理由はみんなに支持される内容を具体的に書く。第3段落には、二つのものが教室にあったら、学級生活がどのように変化するかを具体的に書き、まとめとするとよい。				

■中学校1年生 数学

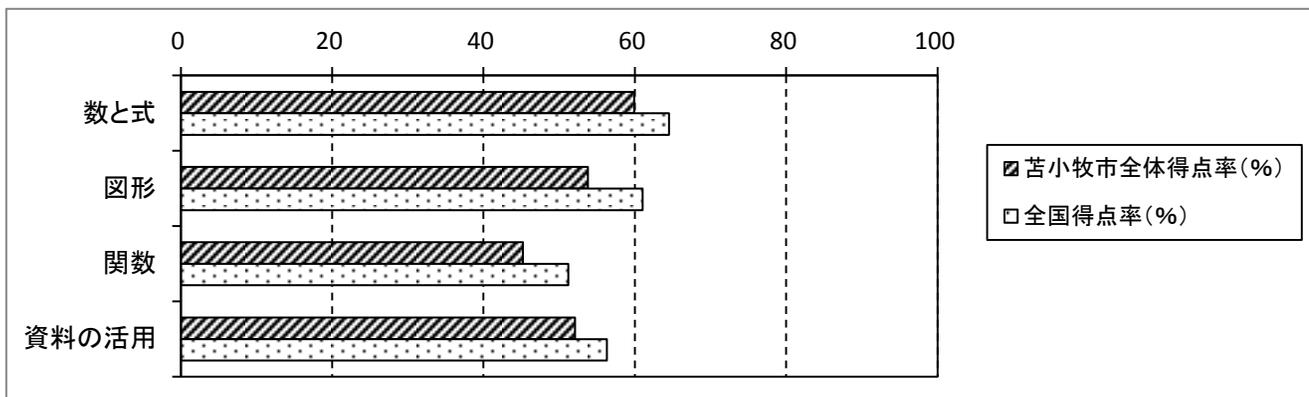
(1) 基礎・活用別得点率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体得点率(%)	54.3	59.0	44.3
全国得点率(%)	59.9	64.3	50.5
全国との差	▲ 5.6	▲ 5.3	▲ 6.2
苫小牧市偏差値(今年度)	47.1	47.3	47.3
前年度同集団偏差値	47.0	47.1	47.2
偏差値推移(今年度-前年度)	0.1	0.2	0.1
前年度同学年偏差値	48.9	49.1	48.6
偏差値推移(今年度-前年度)	▲ 1.8	▲ 1.8	▲ 1.3



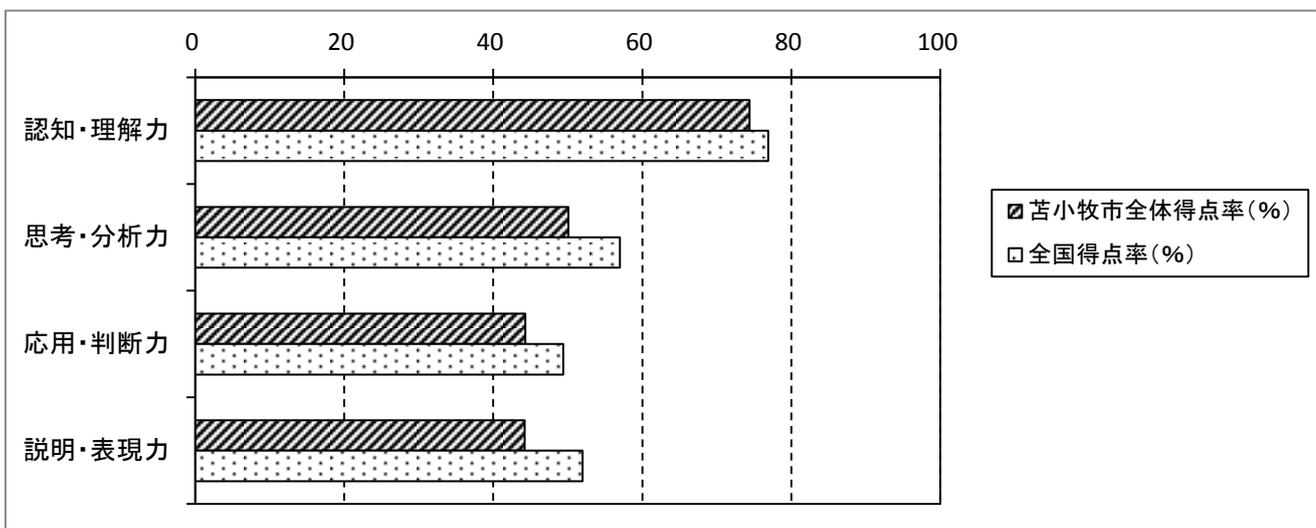
(2) 領域別得点率

	数と式	図形	関数	資料の活用
苫小牧市全体得点率(%)	59.9	53.8	45.2	52.1
全国得点率(%)	64.5	61.0	51.2	56.3
全国との差	▲ 4.6	▲ 7.2	▲ 6.0	▲ 4.2
苫小牧市偏差値(今年度)	47.9	47.0	47.7	48.2
前年度同集団偏差値	47.0	47.9	47.8	47.7
偏差値推移(今年度-前年度)	0.9	▲ 0.9	▲ 0.1	0.5
前年度同学年偏差値	49.2	48.6	49.1	49.5
偏差値推移(今年度-前年度)	▲ 1.3	▲ 1.6	▲ 1.4	▲ 1.3

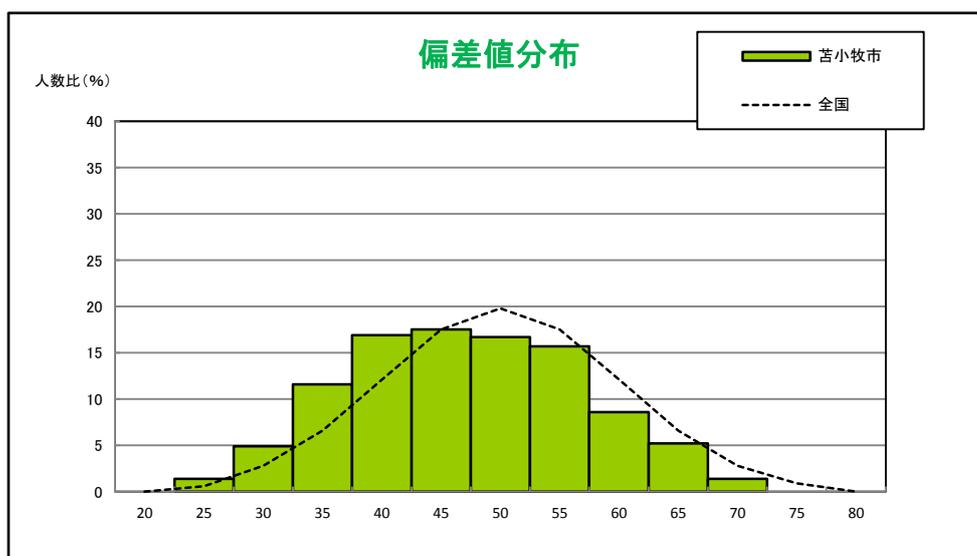


(3) 能力別得点率

	認知・理解力	思考・分析力	応用・判断力	説明・表現力
苫小牧市全体得点率 (%)	74.4	50.1	44.3	44.2
全国得点率 (%)	76.9	57.0	49.4	52.0
全国との差	▲ 2.5	▲ 6.9	▲ 5.1	▲ 7.8
苫小牧市偏差値 (今年度)	48.7	46.8	48.0	47.1
前年度同集団偏差値	47.1	47.5	47.3	47.7
偏差値推移 (今年度-前年度)	1.6	▲ 0.7	0.7	▲ 0.6
前年度同学年偏差値	49.9	48.8	49.1	48.3
偏差値推移 (今年度-前年度)	▲ 1.2	▲ 2.0	▲ 1.1	▲ 1.2



(4) 偏差値分布



偏差値平均 47.1

(5) 課題のある小問についての分析

大問7

【計算のきまり・比・文字と式】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	55.0	70.8	▲ 15.8	62.1	▲ 7.1
出題のねらい	比を利用して、一方の数量から他方の数量を求めることができる。				
対策	具体的な場面において、比の相等とそれらの意味について理解することに課題があると考えられる。比は日常生活のいろいろな場面で用いられるので、日常生活の中で比が用いられる事象を探したり、それらを活用して課題を解決したりする活動を通して、比の関係や比の相等関係についての理解を深めることが大切である。比の関係は、比例・反比例の学習や、拡大図や縮図などの学習と関連が深い内容なので、正確に理解できるように指導する必要がある。				

大問19(2)

【図形の合同と拡大図・縮図】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	54.8	67.2	▲ 12.4	59.5	▲ 4.7
出題のねらい	もとの三角形とその縮図を見て、縮小率を求めることができる。				
対策	もとの三角形とその縮図から、縮小率を求めることに課題がある。縮図の学習では、方眼紙の縦、横の両方の向きに同じ割合で縮小することや、1つの頂点に集まる辺や対角線の長さの比を一定にして縮図をかく学習を行っている。本問では、もとの三角形とその縮図の方向が異なることから、対応する辺を正確に読み取れなかった可能性がある。指導にあたっては、縮図や拡大図をかく活動を行うことはもちろん、図形の向きを変えて縮図や拡大図をかく活動なども取り入れ、かいた後、対応する辺や角などを考察する学習を行うことが必要となる。				

大問22(3)

【比例・反比例・変わり方のきまり】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	54.2	64.9	▲ 10.7	58.5	▲ 4.3
出題のねらい	比例の関係をグラフに表すことができる。				
対策	比例の関係をグラフに表すことに課題があると考えられる。比例を表すグラフが原点を通る直線のグラフであることは、比例のグラフかどうかを見分ける際に利用される重要な性質なので、正確に理解することが必要である。今回のような鉄の棒の長さとその重さの関係のように、2つの数量の関係をグラフに表す活動を通して、比例のグラフが直線になることを、具体的な数量に即して理解できるようにすることが大切である。				

大問27(2)

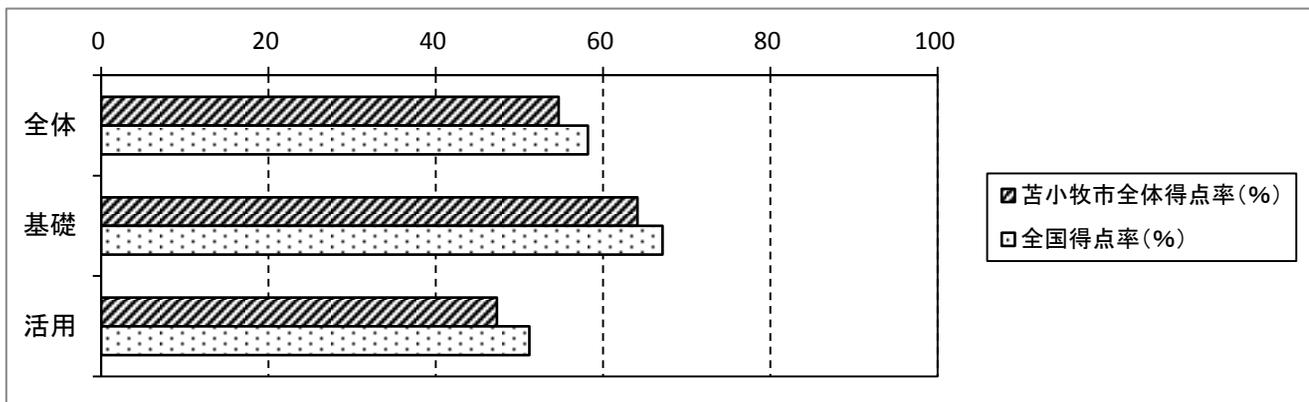
【百分率とグラフ】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	7.5	14.8	▲ 7.3	10.5	▲ 3.0
出題のねらい	資料についての説明の正誤を判断し、その判断の理由を説明することができる。				
対策	本問では、単に割合の増減のみを比較するのではなく、基準となる量も考えて判断することが求められる。例えば、鉄道を利用した人数を比較するときには、1985年度は約36%、2010年度は約26%という利用した人の割合だけではなく、国内旅客輸送の総輸送量自体の増加を考慮する必要がある。1985年度は約50000(百万人)×0.36=18000(百万人)、2010年度は90000(百万人)×0.26=23400(百万人)という具体的な数値を示し、実際の人数を判断するよう指導したい。また、「割合」の意味をしっかりと理解することが重要である。				

■中学校2年生 国語

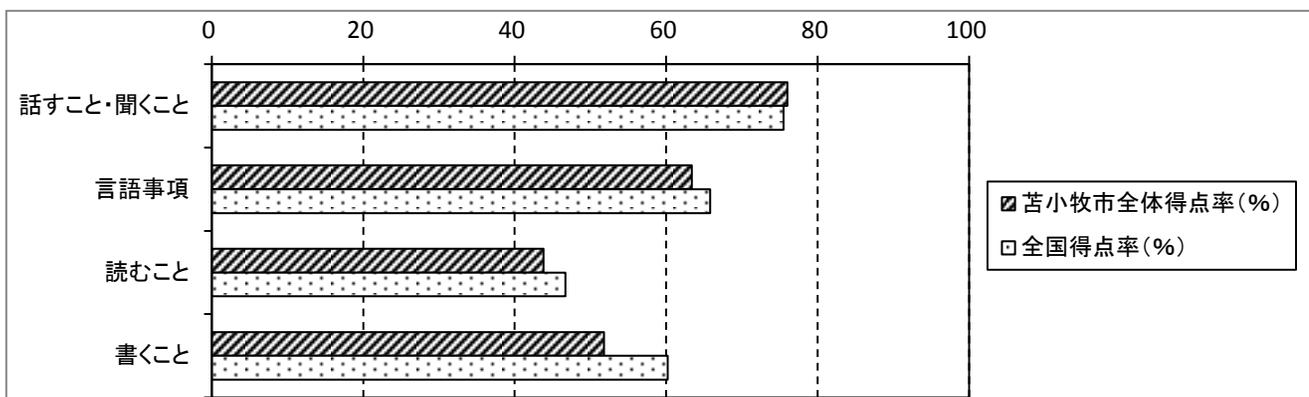
(1) 基礎・活用別得点率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体得点率 (%)	54.7	64.1	47.3
全国得点率 (%)	58.2	67.1	51.2
全国との差	▲ 3.5	▲ 3.0	▲ 3.9
苫小牧市偏差値 (今年度)	47.9	48.1	48.1
前年度同集団偏差値	48.9	48.9	49.0
偏差値推移 (今年度-前年度)	▲ 1.0	▲ 0.8	▲ 0.9
前年度同学年偏差値	46.8	47.6	46.7
偏差値推移 (今年度-前年度)	1.1	0.5	1.4



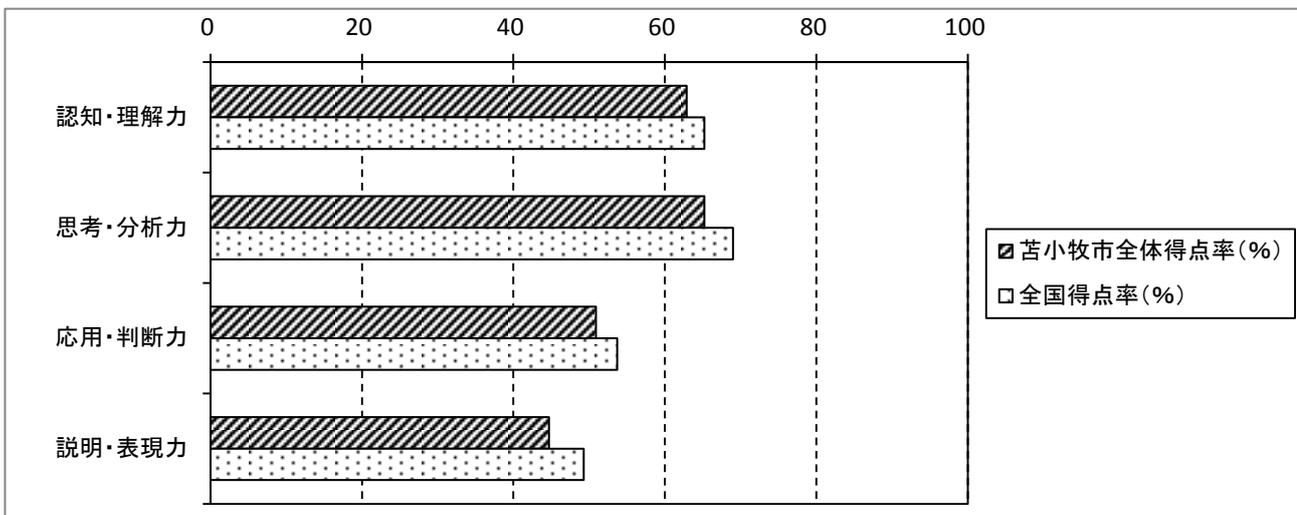
(2) 領域別得点率

	話すこと・ 聞くこと	言語事項	読むこと	書くこと
苫小牧市全体得点率 (%)	76.0	63.4	43.8	51.8
全国得点率 (%)	75.5	65.8	46.7	60.2
全国との差	0.5	▲ 2.4	▲ 2.9	▲ 8.4
苫小牧市偏差値 (今年度)	50.2	48.8	48.5	47.5
前年度同集団偏差値	49.4	47.9	49.9	48.9
偏差値推移 (今年度-前年度)	0.8	0.9	▲ 1.4	▲ 1.4
前年度同学年偏差値	48.3	48.0	48.7	46.0
偏差値推移 (今年度-前年度)	1.9	0.8	▲ 0.2	1.5

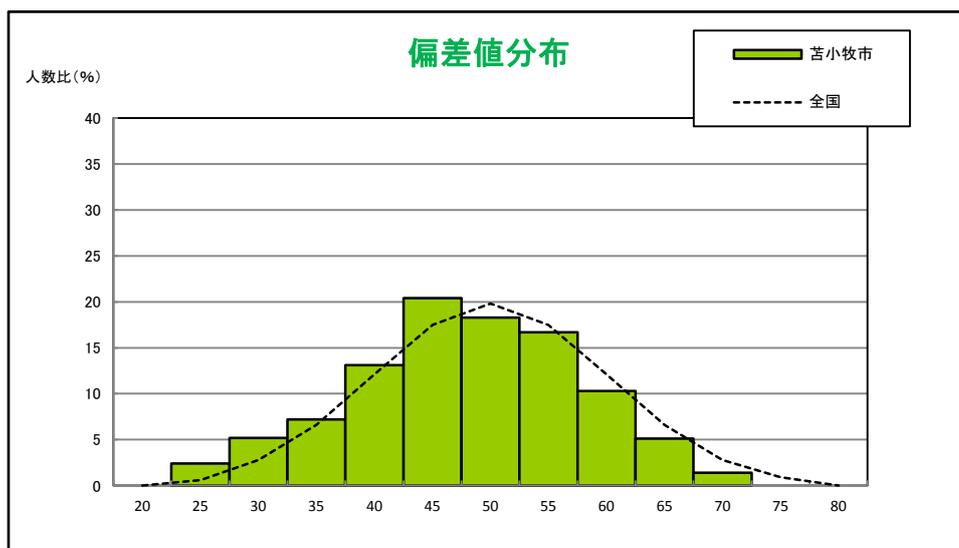


(3) 能力別得点率

	認知・理解力	思考・分析力	応用・判断力	説明・表現力
苫小牧市全体得点率 (%)	62.9	65.2	50.9	44.7
全国得点率 (%)	65.2	69.0	53.7	49.3
全国との差	▲ 2.3	▲ 3.8	▲ 2.8	▲ 4.6
苫小牧市偏差値 (今年度)	48.9	47.9	48.7	48.1
前年度同集団偏差値	48.1	50.3	49.4	48.9
偏差値推移 (今年度-前年度)	0.8	▲ 2.4	▲ 0.7	▲ 0.8
前年度同学年偏差値	47.1	48.8	49.0	46.1
偏差値推移 (今年度-前年度)	1.8	▲ 0.9	▲ 0.3	2.0



(4) 偏差値分布



偏差値平均 47.9

(5) 課題のある小問についての分析

大問2(2)⑥

【漢字の書き】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	41.3	51.4	▲ 10.1	44.5	▲ 3.2
出題のねらい	小学校で学習した漢字を書くことができる。				
対策	すべて小学校で習った漢字からの出題である。小学校で習った漢字も、公立高校の入学試験問題における漢字の書き取りの出題範囲に含まれるので、確実に書けるようにしておく必要がある。漢字を書く力を養うためには、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる習慣と使い方を身に付けていくことが重要である。文脈に即して適切に用いることができるよう、授業において意図的に取り上げるなどの工夫をしながら、学習を進めていきたい。				

大問3(5)

【文法・語句に関する知識】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	40.1	48.8	▲ 8.7	45.0	▲ 4.9
出題のねらい	文の成分を理解している。				
対策	文の成分の理解を問う問題は、高校入試においては、言葉のきまり（文法）に関する問題の中心的な存在である。基本的な対策は、日常生活において、話したり文章を書いたりするとき、相手に分かりやすく説得力があるようにすることを、意識的に行うことである。文の骨格は主語と述語であり、それは、主語が省略されている文においても同様である。本問は二つの文（複文）、「（その日は）雨だった。」「ぼくは…家を出た。」から成り立っており、主たる文は後文である。したがって、前文は理由を表す接続語であることを理解させたい。				

大問4(1)

【文学的文章の内容の読み取り】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	60.4	69.3	▲ 8.9	64.8	▲ 4.4
出題のねらい	文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、読むことができる。また、擬態語を理解している。				
対策	日本語の特徴の一つとして、擬音語・擬態語（オノマトペ）が挙げられる。音や状態を表す単語であるが、それが情景や心情を表す上で大きな役割を果たすことを理解させたい。本問では、「腹が立つ」ことを表す擬態語を問っている。「はらはら」は心配や不安な様子、「そわそわ」は落ち着かない様子、「おろおろ」は慌ててどうしてよいか分からない様子を表す擬態語である。文章を読むとき、擬音語や擬態語に注目し、それが文章の中でどのような役割を果たしているかを注意深く読み取らせることが大切である。				

大問7(2)

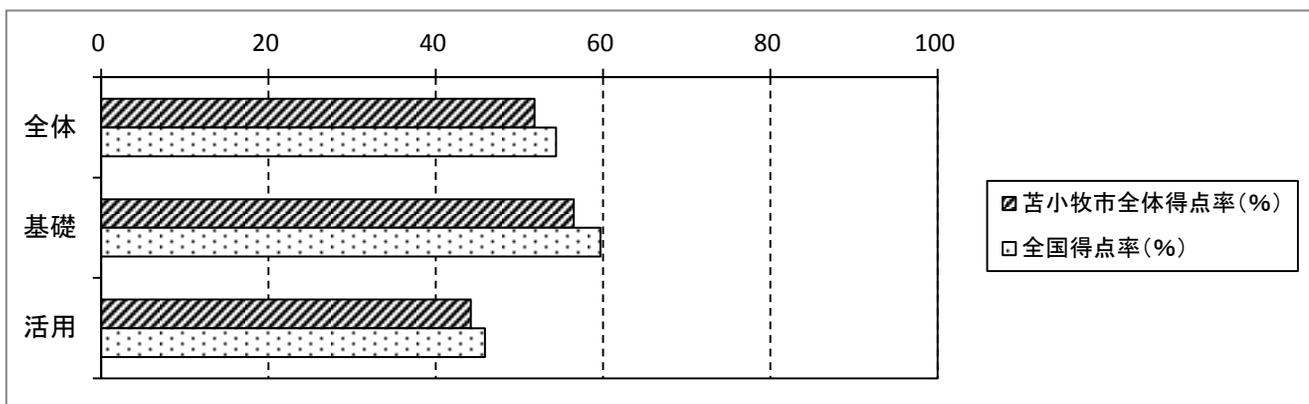
【作文】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	53.2	59.8	▲ 6.6	45.9	7.3
出題のねらい	根拠を明確にして、自分の考えや気持ちをまとめて書くことができる。				
対策	意見文を読んで、条件に即して自分の考えを書く問題である。ここで注意しなければならないことは、問題に書かれた意見に対する「反論」を書く、ということである。まずは第1段落に、自分は「ノーチャームに反対である」という立場を明確に示すことが大切である。次に、第2・第3段落において、反論する根拠を二つ挙げるように指示されているため、意見文の中の賛成の根拠に対する反証を挙げたり、ノーチャームにした場合のデメリットを挙げたりすることなどが考えられる。また、原稿用紙の使い方については、きちんと復習しておく必要がある。				

■中学校2年生 数学

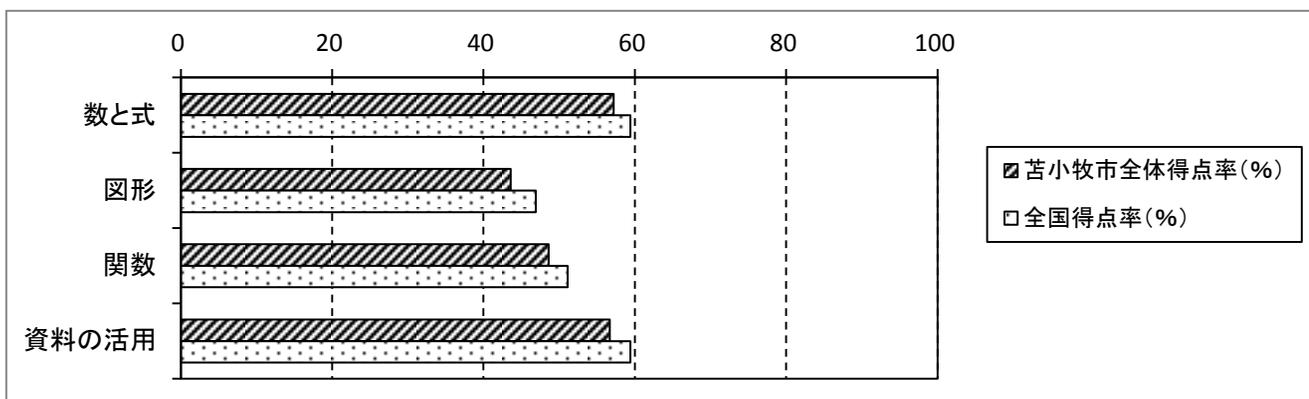
(1) 基礎・活用別得点率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体得点率(%)	51.8	56.5	44.2
全国得点率(%)	54.4	59.7	45.9
全国との差	▲ 2.6	▲ 3.2	▲ 1.7
苫小牧市偏差値(今年度)	48.6	48.3	49.2
前年度同集団偏差値	48.9	49.1	48.6
偏差値推移(今年度-前年度)	▲ 0.3	▲ 0.8	0.6
前年度同学年偏差値	48.3	48.0	49.0
偏差値推移(今年度-前年度)	0.3	0.3	0.2



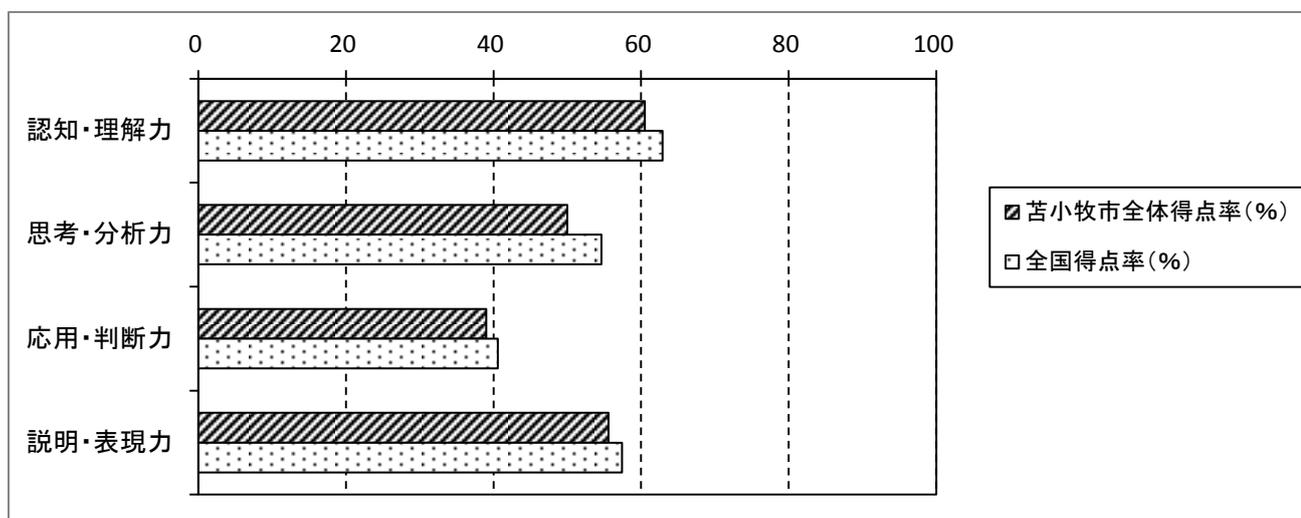
(2) 領域別得点率

	数と式	図形	関数	資料の活用
苫小牧市全体得点率(%)	57.2	43.6	48.6	56.7
全国得点率(%)	59.4	46.9	51.1	59.4
全国との差	▲ 2.2	▲ 3.3	▲ 2.5	▲ 2.7
苫小牧市偏差値(今年度)	48.9	48.4	49.0	48.9
前年度同集団偏差値	49.2	48.6	49.1	49.5
偏差値推移(今年度-前年度)	▲ 0.3	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 0.6
前年度同学年偏差値	48.6	48.4	48.7	48.5
偏差値推移(今年度-前年度)	0.3	0.0	0.3	0.4

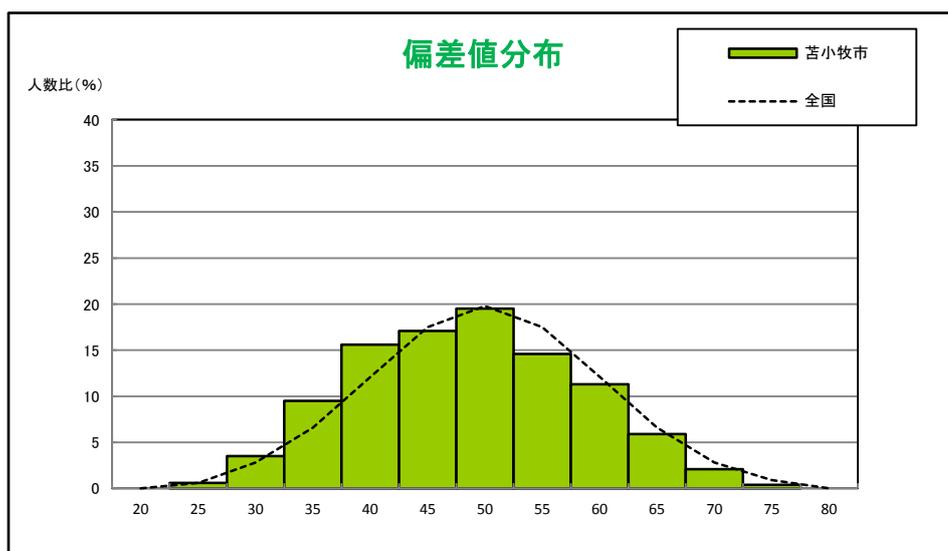


(3) 能力別得点率

	認知・理解力	思考・分析力	応用・判断力	説明・表現力
苫小牧市全体得点率 (%)	60.5	50.0	39.0	55.6
全国得点率 (%)	62.9	54.6	40.6	57.4
全国との差	▲ 2.4	▲ 4.6	▲ 1.6	▲ 1.8
苫小牧市偏差値 (今年度)	48.9	47.8	49.2	49.4
前年度同集団偏差値	49.9	48.8	49.1	48.3
偏差値推移 (今年度—前年度)	▲ 1.0	▲ 1.0	0.1	1.1
前年度同学年偏差値	48.2	48.1	49.3	48.8
偏差値推移 (今年度—前年度)	0.7	▲ 0.3	▲ 0.1	0.6



(4) 偏差値分布



偏差値平均 48.6

(5) 課題のある小問についての分析

大問9

【1次方程式】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	47.2	50.5	▲ 3.3	45.5	1.7
出題のねらい	文章題の内容にあった適切な1次方程式をつくることができる。				
対策	1次方程式を用いて問題を解決する学習では、問題の中の数量やその関係から、二通りに表される数量を見いだして、文字を用いた式や数で表し、それらを等号で結んで1次方程式をつくる必要がある。これは、文字式を用いて数量の関係を表したり読み取ったりする学習と深く関連する。本問では、博さんの身長を基に父の身長と妹の身長を表した関係と、父と妹の身長の関係の2つの関係を正確に読み取らなければならない。指導にあたっては、問題の中の数量の関係を読みやすくするため、図や表などにまとめる活動が必要になる。また、求めたい数量は何かを明確にさせたい。				

大問17(2)

【空間図形】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	28.8	39.0	▲ 10.2	31.3	▲ 2.5
出題のねらい	円柱の表面積を求める正しい式を選択することができる。				
対策	円柱の表面積を求める場合、底面積と側面積を求めることが必要である。誤答の原因としては、底面は1つしかないと考えている場合や、底面の円周と側面の長方形の横の長さが一致することを十分に理解していない場合などが考えられる。授業では、立体を平面上に展開して表面積を求めるなどの活動を通して、生徒の実感を伴った指導を行うことが大切である。その際、展開図の有用性を理解できるようにすることも大切であり、立体模型を観察させたり、その展開図をかかせたりする指導も効果的である。				

大問23

【比例・反比例】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	28.8	32.0	▲ 3.2	30.1	▲ 1.3
出題のねらい	点が直角三角形の辺上を動くときの、時間と面積の関係を表した正しいグラフを選択することができる。				
対策	比例の学習では、比例の意味、比例定数の意味を理解し、比例定数の値によってどのようにグラフが変わるかを学習する。表、式、グラフの相互関係も、今後の学習では重要になる。本問では、まず△ABPの面積＝ $AB \times BP \div 2$ で求められることを押さえ、具体的に1秒後、2秒後の面積がどのように変わっていくかを把握できればよい。指導にあたっては、点Pが一定の速さで移動するので、比例の関係であることを確認し、点Pが何秒後に点Cに到着するか、その際の三角形のABPの面積を考えさせる。比例の意味や表、式、グラフの相互関係を、具体的な事例を踏まえて指導したい。				

大問25

【資料の散らばりと代表値】

	苫小牧市全体得点率	全国得点率	全国との差	前年度得点率	前年度との差
得点率 (%)	48.2	57.4	▲ 9.2	47.5	0.7
出題のねらい	ある測定値を、有効数字を使って、 $a \times 10^n$ の形で表すことができる。				
対策	算数・数学の学習では、目的に応じて数を表すことを学んできている。例えば、概数の考え方をういて、四則計算の結果を見積もる学習がこれに当たる。数の表し方については、資料の収集に際して、測定値としてどの数字までが信頼できるのか、 $a \times 10^n$ の形で表せば、有効数字を明らかにすることができる。これにより、近似値の誤差の見積りも可能となる、大切な学習である。こうした測定値や近似値の内容は、理科の学習との関連も踏まえて指導することで、より理解が深まると考えられる。				